

大阪府茨木市

平成 21 年度発掘調査概報
- 個人住宅建築に伴う発掘調査報告 -

平成 22 年 3 月

茨木市教育委員会

はじめに

私たちが暮らしているこの茨木は、北半分は丹波高原の老の坂山地の麓で、南半分には大阪平野の一部をなす三島平野が広がり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた過ごしやすい環境の土地として、はるか昔から多くの人たちが生活してきました。そうした人びとの生活は風習として現在に伝えられ、また人びとの生活した足跡は、土に埋もれた文化財として今に残されてきました。

このような先人たちの生活や文化は、現代の私たちの生活の基となるものであり、また、土の中に残された遺構や遺物は、過去の人びとの生活を知る手がかりとなる貴重な文化遺産として、次代に残し伝えていくべきものであります。

しかし、市内においては、住宅開発をはじめ様々な開発が計画されており、人びとの貴重な文化財を現状のまま残すことが困難になっています。

そのため、文化財を記録して保存し、また出土した遺物や遺構などの資料から古代の人びとの生活像を捉るために、住宅建築をされる方々のご協力をえて、建築に先立ち発掘調査を実施し、文化財の記録保存に努めています。

平成 21 年度はおもに中条小学校遺跡、郡遺跡、太田遺跡等の調査を実施し、本冊子はそれらの発掘調査について概略を述べたものです。いずれの調査地からも先人達の生活を知るうえで貴重な遺物、遺構が出土しており今後の研究が期待されます。

終わりになりましたが、調査にあたって惜しみないご協力をいただきました関係の皆様に深く感謝するとともに、今後とも本市の埋蔵文化財の保存・保護に一層の温かいご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成 22 年 3 月 31 日

茨木市教育委員会
教育長 八木 章治

目次

はじめに

例言

茨木市内遺跡分布図

平成21年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

1.穂積庵寺跡（上穂積三丁目1004-1）	1
2.鮎川遺跡（鮎川二丁目84-9）	5
3.上中条遺跡（上中条二丁目50-6）	9
4.太田遺跡（太田二丁目22-2）	11
5.郡遺跡（五日市緑町25-2）	16
6.五日市遺跡（上野町88-8）	18
7.倍賀遺跡（春日四丁目508-4・280-3）	20
8.中条小学校遺跡（下中条町51-6・51-7）	22
9.郡遺跡（上穂積二丁目43-6）	24
10.中条小学校遺跡（下中条町126-4）	27
11.郡遺跡（上穂積四丁目1052-3）	32
12.鮎川遺跡（鮎川二丁目74-18）	36
13.茨木遺跡（別院町1357-1）	39
14.太田遺跡（東太田一丁目437-36）	45
15.牟礼遺跡（中津町858-53）	47
16.東奈良遺跡（奈良町508-1,508-5）	49
17.中条小学校遺跡（西中条町137-10・西中条町137-11）	53
18.茨木遺跡（本町1031-1）	55

例　言

- 1 本書は、平成21年度国庫補助事業（総額1,673,884円、国庫50%、市費50%）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。
- 2 平成21年度事業として、平成21年4月1日から平成22年3月31日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
- 3 発掘調査は、調査員中東正之、宮本賢治、関梓が担当した。整理・報告書作成業務は、平成22年3月末日まで行った。本書は各調査担当者が執筆を行ない、編集は上田哲平が行なった。整理作業は、高橋公子、堀澤照美、下口法子、西坂泰子、和田恵津子、高瀬隆治、西井貞善、辻木祐布子、菅原麻里、横尾知明が行ない、遺構トレースは初代絵理が担当した。また、国庫補助に関わる事務は、主幹池田育生、上田哲平、福岡真菜が担当した。
- 4 本書で使用する標高は、すべてT.P.（東京湾標準海面）で表し、各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは真北を示す。また、平面直角座標第IV系に準じる。
- 5 出土遺物及び関係書類・図面・写真等は、茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料館〒567-0861大阪府茨木市東奈良三丁目12番18号TEL072-634-3433で保管している。
- 6 遺構・遺物等の記載は、土層及び遺物の色調については『新版標準土色帖』(小山・竹原編)を使用した。

図版目次

第 1 図 德積庵寺跡	調査位置図	P. 1	第 42 図 鮎川遺跡	調査位置図	P. 36
第 2 図 德積庵寺跡			第 43 図 鮎川遺跡	調査地配置図	P. 36
	調査区平版図、平・断面図	P. 3	第 44 図 鮎川遺跡	調査区平面・断面図	P. 37
第 3 国 德積庵寺跡	発掘調査風景	P. 4	第 45 国 鮎川遺跡	上層断面・出土遺物	P. 38
第 4 国 鮎川遺跡	調査位置図	P. 5	第 46 国 茅木遺跡	調査位置図	P. 39
第 5 国 鮎川遺跡			第 47 国 茅木遺跡		
	平板・平面・調査区土層断面図	P. 7		平板図、第 1 造構面平面図	P. 41
第 6 国 鮎川遺跡	発掘調査風景	P. 8	第 48 国 茅木遺跡		
第 7 国 上中条遺跡	調査位置図	P. 9	第 2 造構面平面図、北壁・西壁土層断面図		P. 42
第 8 国 上中条遺跡	調査区配置図	P. 9	第 49 国 茅木遺跡	造構面検出状況	P. 43
第 9 国 上中条遺跡	造構平面・東壁断面図	P. 10	第 50 国 茅木遺跡	出土遺物	P. 44
第 10 国 上中条遺跡	発掘調査風景	P. 10	第 51 国 太田遺跡	調査位置図	P. 45
第 11 国 太田遺跡	調査位置図	P. 11	第 52 国 太田遺跡	調査区配置図	P. 45
第 12 国 太田遺跡			第 53 国 太田遺跡	西壁断面図	P. 46
	平板・平面・調査区土層断面図	P. 13	第 54 国 太田遺跡	発掘調査風景	P. 46
第 13 国 太田遺跡	発掘調査風景	P. 14	第 55 国 半札遺跡	調査位置図	P. 47
第 14 国 太田遺跡	出土遺物	P. 15	第 56 国 半札遺跡	調査区配置図	P. 47
第 15 国 郡遺跡	調査位置図	P. 16	第 57 国 半札遺跡	南壁断面柱状図	P. 48
第 16 国 郡遺跡	調査区配置図	P. 16	第 58 国 半札遺跡	発掘調査風景	P. 48
第 17 国 郡遺跡	造構平面図・東壁断面図	P. 17	第 59 国 東奈良遺跡	調査位置図	P. 49
第 18 国 郡遺跡	発掘調査風景	P. 17	第 60 国 東奈良遺跡	調査区位置図	P. 49
第 19 国 五日市遺跡	調査位置図	P. 18	第 61 国 東奈良遺跡	調査地平面・断面図	P. 51
第 20 国 五日市遺跡			第 62 国 東奈良遺跡	上層断面・出土遺物	P. 52
	五日市遺跡航空写真(終戦直後)	P. 18	第 63 国 中条小学校遺跡	調査位置図	P. 53
第 21 国 五日市遺跡			第 64 国 中条小学校遺跡	調査区配置図	P. 53
	調査区配置図・南壁断面図	P. 19	第 65 国 中条小学校遺跡	造構平面図・南壁断面図	P. 54
第 22 国 五日市遺跡	発掘調査風景	P. 19	第 66 国 中条小学校遺跡	発掘調査風景	P. 54
第 23 国 信賀遺跡	調査位置図	P. 20	第 67 国 茅木遺跡	調査位置図	P. 55
第 24 国 信賀遺跡	調査区配置図	P. 20	第 68 国 茅木遺跡	第 1・第 2 造構平面図	P. 57
第 25 国 信賀遺跡	造構平面・東壁断面図	P. 21	第 69 国 茅木遺跡	第 3 造構平面図・東壁・南壁土層断面図	P. 58
第 26 国 信賀遺跡	発掘調査風景	P. 21	第 70 国 茅木遺跡	造構面検出状況	P. 59
第 27 国 中条小学校遺跡	調査位置図	P. 22	第 71 国 茅木遺跡	出土遺物	P. 60
第 28 国 中条小学校遺跡	調査区配置図	P. 22			
第 29 国 中条小学校遺跡	造構平面図・西壁断面図	P. 23			
第 30 国 中条小学校遺跡	発掘調査風景	P. 23			
第 31 国 郡遺跡	調査位置図	P. 24			
第 32 国 郡遺跡	調査区位置図	P. 24			
第 33 国 郡遺跡	調査区平面・断面図	P. 25			
第 34 国 郡遺跡	造構面検出状況	P. 26			
第 35 国 中条小学校遺跡	調査位置図	P. 27			
第 36 国 中条小学校遺跡					
	平板図、第 1 造構面平面図・セクション図	P. 29			
第 37 国 中条小学校遺跡					
	第 2 造構面平面図・セクション図・調査区西壁・南壁上層断面図	P. 30			
第 38 国 中条小学校遺跡	造構検出状況	P. 31			
第 39 国 郡遺跡	調査位置図	P. 32			
第 40 国 郡遺跡					
	平板・平面・調査区上層断面図	P. 34			
第 41 国 郡遺跡	造構検出状況	P. 35			

高 榆 市

雷久庭北齋

100

卷之三

三

三

卷之三

三

100

三

三

七

10

三

卷之三

十一

1

4

100

四

三

三

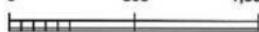
四

茨木市内遺跡分布図

0

500

1 000 m



平成 21 年度 埋蔵文化財発掘調査一覧

No	遺跡名	調査担当	調査位置	調査期間	調査面積	調査内容
1	上中条遺跡 (KC09-01)	中東	上中条二丁目 50-6	H21.4.13 ~ H21.4.15	43.0 m ²	古墳時代溝・ピット
2	太田遺跡 (OT09-01)	宮本	太田二丁目 22-2	H21.5.25	12.0 m ²	古墳時代～近世時代 第一面（中・近世） 第二面（古墳～平安）
3	郡遺跡 (KH09-01)	中東	五日市緑町 25-2	H21.6.1 ~ H21.6.2	44.0 m ²	古墳時代 柱穴・土壙・ピット
4	五日市遺跡 (Pi09-01)	中東	上野町 88-8	H21.6.4	14.0 m ²	中世時代 埋没道路
5	倍賀遺跡 (HK09-01)	中東	春日四丁目 508-4 · 280-3	H21.6.25 ~ H21.6.26	49.0 m ²	ピット
6	中条小学校遺跡 (CJ09-02)	中東	下中条町 51-6 · 51-7	H21.7.14 ~ H21.7.15	21.0 m ²	弥生時代～古墳時代 ピット・溝
7	郡遺跡 (KII09-02)	関	上穂積二丁目 43-6	H21.7.15	3.6 m ²	柱穴 時代を特定できる遺物出土せず
8	中条小学校遺跡 (CJ09-03)	宮本	下中条町 126-4	H21.8.6 ~ H21.8.7	6.0 m ²	弥生時代～奈良時代 第一面（弥生後期～奈良） 第二面（弥生後期前葉）
9	郡遺跡 (KH09-03)	宮本	上穂積四丁目 1052-3	H21.8.18	6.0 m ²	ピット 時代を特定できる遺物出土せず
10	鮎川遺跡 (AY09-01)	関	鮎川二丁目 74-18	H21.8.25 ~ H21.8.26	3.6 m ²	中世時代 溝
11	茨木遺跡 (IK09-02)	宮本	別院町 1357-1	H21.9.24 ~ H21.9.25	14.5 m ²	中世時代 溝・上塙・ピット
12	太田遺跡 (OT09-02)	中東	東太田一丁目 437-36	H21.11.18	4.6 m ²	弥生時代
13	牟礼遺跡 (MR09-01)	中東	中津町 858-53	H21.10.20	22.5 m ²	平安時代～中世時代
14	東奈良遺跡 (HN09-01)	関	奈良町 508-1 · 508-5	H21.11.18	14.0 m ²	柱穴・土壙・溝 時代を特定できる遺物出土せず
15	中条小学校遺跡 (CJ09-06)	中東	西中条町 137-10	H21.12.9 ~ H21.12.10	16.0 m ²	削平されたとみられる遺構の痕跡を確認
16	中条小学校遺跡 (CJ09-07)	中東	西中条町 137-11	H21.12.9 ~ H21.12.10	27.0 m ²	削平されたとみられる遺構の痕跡を確認
17	茨木遺跡 (IK09-03)	宮本	本町 1031-1	H21.12.21 ~ H21.12.22	12.0 m ²	近世時代 ピット・溝

平成 21 年度の発掘調査のうち、平成 22 年 1 月以降の調査についての報告は「平成 22 年度発掘調査概報 - 個人住宅建築に伴う発掘調査報告 -」にて掲載します。

穂積廃寺跡 (HH08-1)

所在地 茨木市上穂積三丁目 1004-1

開発事業 個人住宅建設事業

調査期間 平成 21 年 3 月 5 日～9 日

調査面積 34 m²

調査担当 宮本 賢治

調査結果

穂積廃寺跡は、奈良時代から鎌倉時代頃にかけて営まれた古代寺院関連遺跡である。遺跡の範囲は南北に約 0.4km × 東西に約 0.23km と、若干南北に長く広がりをみせている。その遺跡の包蔵地の範囲は、上穂積一～四丁目付近を中心位置している。地形の様相としては、標高約



第1図 調査位置図

15m の千里丘陵から派生した丘陵部に位置しており、茨木川右岸にあたる地域である。

この穂積廃寺跡の包蔵地には、かつてこの地を統率したと考えられている有力氏族である穂積氏によって創建された寺院があったとされている。平安時代の初期の頃に著わされた『和名類聚抄』(和名抄)によると、島下郡には新野・宿久・安威・穂積の四郷があったとされており、この頃には既に穂積の名称が存在していた事が分かっている。

これまでの既往の本発掘調査では、6～7世紀頃の蓮花文軒丸瓦や重弧文軒平瓦が出土している。なお、寺院に関連する構造は検出されていない。その出土した瓦の供給先として、吹田市山田所在の白頭瓦窯跡がその推定地として考えられている。茨木市内には古窯跡として、上穂積の松沢池須恵器窯跡や北春日丘の茨木ゴルフ場内須恵器窯跡が知られているが瓦を制作した痕跡を示す窯跡は、発見されていない。

周辺の遺跡には、弥生時代中期頃～中世頃にかけての集落跡である郡遺跡や、郡三丁目にある郡山神社を中心に古墳が点在する郡古墳群の東方に今回の調査地は位置している。

今回の調査では、隣接建物への控えや盛土や自然堆積土などの排土置き場の確保等の条件を考慮したうえで業者との協議を経て、東西に 7m × 南北に 4.8m のトレンチを設定し調査の対象とする事とした。

基本層序

基本層序については、第 1 層～第 5 層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第 1 層は現代の擾乱を含む造成盛土の層である。層厚は、全体を通して概ね 1m80cm を計る。第 2 層は、旧耕作土である。層厚は概ね 15～25cm であるが、西側部分においては第 1 層の造成盛土による擾乱を受けており、旧耕作土の一部は削平されている状況であった。第 3 層においては、灰色粘性シルト SiCL5Y4/1 の土色を持つ自然堆積層が検出されている。層厚は、

西側では概ね 15cm を計るが、南側にいくにしたがって層は希薄になりやがて削平されている状況である。第 4 層においては、灰白色粘性シルト SiCL7.5Y7/1 の土色を持つ自然堆積層が検出されている。層厚は、北側では概ね 25cm であるが、南側に向かうにしたがって層の厚みは増し、概ね 35cm を測る。第 5 層は中世頃の土器を含む、遺物包含層である。

軟弱質な盛土の厚みが約 1m80cm あり、これ以上の掘削は崩落する可能性が予想された為、約 5 ~ 10cm の検出を試みるにとどまった。なお、この包含層の土色は、暗赤褐色砂質土 SL5YR3/4 である。

検出遺構

今回の調査においては、隣接建物への控えや盛土などの排土上置き場の確保しており、調査面積は狭小なものとなっている。掘削深度は現 GL より最大深 2m40cm まで掘削したが、遺物包含層の上層の一部のみの検出であり、その下層にあると思われる遺構の確認までには至らなかった。

出土遺物

今回の調査において出土した遺物は、遺物包含層内より出土した摩滅した上師器片 1 点である。その上師器の時期はかなり摩滅している事から、時期を比定できなかった。なお、總積磨寺跡の包蔵地内において、6 ~ 7 世紀頃の蓮花文軒丸瓦や重弧文軒半瓦が出土している。

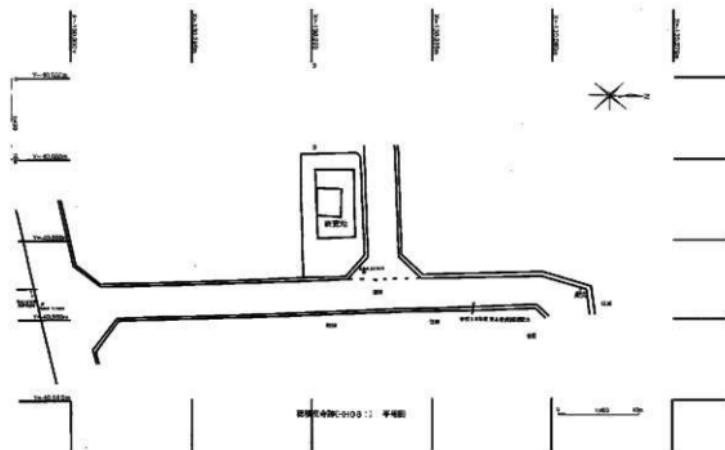
まとめ

今回の調査では、面積が狭小な為、安全上遺物包含層の一部分までしか確認できなかった。總積磨寺跡では、今回の調査を含め 7 箇所ほどの調査が実施されている。これらの調査では寺院に関連する遺構は検出されていない事から、今後の周辺の調査に期待するものである。

参考文献

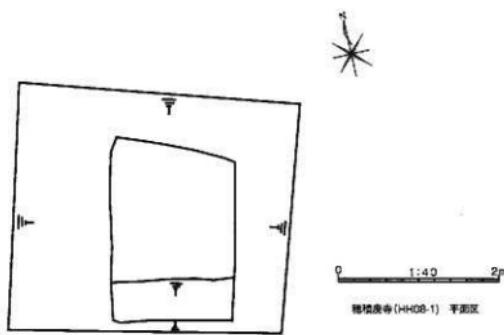
平成 14 年度発掘調査概報 茨木市教育委員会 平成 15(2003) 年 3 月 31 日

平成 19 年度発掘調査概報 茨木市教育委員会 平成 20(2008) 年 3 月 31 日



排水沟

发木市3号基准点
20-325

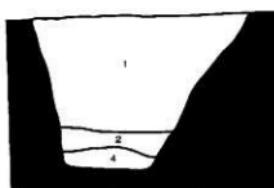


(南壁土层断面图2)

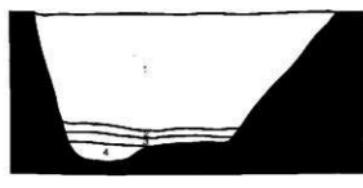
(南壁土层断面图1)

W

L=22.00m



1. 黑土
2. 灰砾土
3. 灰色粘土
4. 白色粉性沙土
5. 灰色带黑斑的砂质土



- 穗积庵寺(HH08-1)
S=1/50 穗积庵寺土层断面图

第2图 穗积庵寺(HH08-1) 调查地平板图、平·断面图



調査地全景（北東から）



調査区西部 機会掘削状況（北西より）



調査区西部 平面掘削状況（北西より）



調査区西部 南壁土層断面



調査区東部 平面掘削状況（北西より）



調査区東部 南壁土層断面



調査区東部 機械掘削深度
現 GL-2m50cm (北より)



測量作業状況（北東より）

第3図 穂積廃寺跡(HH08-1) 発掘調査風景

鯰川遺跡(AY08-1)

所在地 茨木市鯰川二丁目 84-9

開発事業 個人住宅建設事業

調査期間 平成 21 年 3 月 16 日

調査面積 2 m²

調査担当 宮本 賢治

調査結果

鯰川遺跡は、弥生時代から中・近世の頃にかけて営まれた集落遺跡である。遺跡の範囲は南北に約 0.5km × 東西に約 0.5km の広がりをみせ、十文字のやや崩れた形状である。その包蔵地の面積は、約 15 万 6 千 m² を測る。包蔵地の範囲は、鯰川二丁目付近を中心

位置している。茨木市域の東南部に位置している。地形の様相としては標高約 15m の千里丘陵から派生した谷川平野、自然堤防上に相当しており、安威川の東岸にあたる地域である。

鯰川遺跡の所在する旧鯰川村は、古代に律令が施行された頃には旧村の東側の白川地区が「嶋上郡」に、また西側の鯰川地区は「嶋下郡」に属していた¹⁾；また、1616(元和二)～1617(元和三)年頃に考わされたものとされる『摂津一国高御改帳』によれば、両地区共に高槻藩内藤信正領に属していた。その後、領主はめまぐるしく変わり、1649(慶安二)年 7 月に永井直清が高槻藩主に就いてからは幕末期まで永井家領として続いた。

周辺の遺跡には、弥生時代中期頃～中世頃にかけての集落跡である郡遺跡や、郡三丁目にあら郡山神社を中心に古墳が点在する郡古墳群の東方に今回の調査地は位置している。

今回の調査では、東西に 1m × 南北に 2m のトレンチを設定し調査の対象とする事とした。

基本層序

基本層序については、第 1 層～第 2 層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第 1 層は現代の搅乱を含む造成盛土の層である。層厚は、概ね 0.4m を計る。第 2 層は、自然堆積層である。土性は、褐灰砂疊 S7.5Y4/1 を主体とする。層厚は概ね 0.1m である。なお、この層に含まれる礫は小さなことで径 0.01m、大きなもので 0.3m のものが敷き詰められるような状況であった。先に述べたように安威川の東岸地域に属する事から、同地は安威川の分流に相当する場所だった可能性が考えられる。

検出構造・遺物

今回の調査においては盛土内の掘削にとどまる事から、埋蔵文化財に関する遺構及び遺物の確認までには至らなかった。

まとめ

今回の調査では掘削深度及び調査面積が限られていた為、盛土内の範囲のみの調査となった。



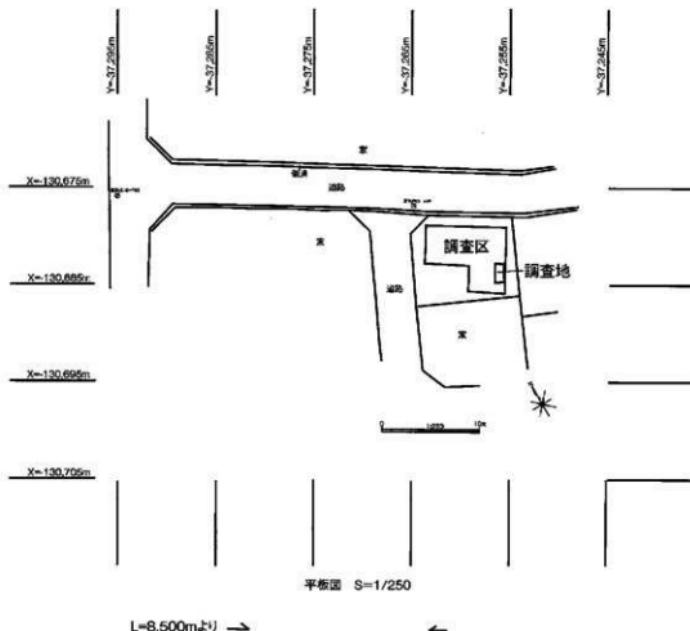
第 4 図 調査位置図

参考文献

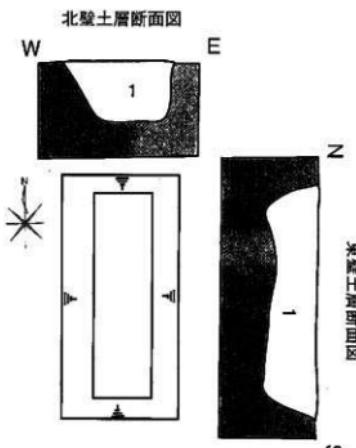
平成14年度発掘調査概報 茨木市教育委員会 平成15(2003)年3月31日

平成19年度発掘調査概報 茨木市教育委員会 平成20(2008)年3月31日

※1 茨木市史編さん室編 2001『鶴川村庄屋日記一』【新修 茨木市史 史料集3】



L=8.500mより →



基本層序

1. 盛土
2. 暗灰色砂礫 S7.5YR4/1※直徑1cm～約30cmの埋含む

第5図 鮎川遺跡(AY08-1) 平板・平面・調査区土層断面



調査地 全景（西より）



調査区東壁土層断面



調査区北壁土層断面



調査区平面掘削状況（南より）



測量作業風景（北より）



機械掘削深度、現GL-53cm



機械掘削深度、現 GL-57cm



埋め戻し、作業風景（北西より）

第6図 鮎川遺跡(AY08-1) 発掘調査風景

上中条遺跡 (KC09-01)

所在地 茨木市上中条二丁目 50-6

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 4 月 13 ~ 15 日

調査面積 約 43 m²

調査担当 中東正之

調査結果

経過 上中条遺跡は、茨木市の市街地を流れる元茨木川右岸、上中条一丁目付近に位置する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。規模は東西約 150m、南北約 400m を測る。周辺では JR 東海道本線を隔てて倍賀遺跡と春日遺跡、元茨木川左岸の茨木遺跡、本遺跡の南方に端を接して広がる駅前遺跡などが知られている。既往の調査としては、早くから市街化したために住居の建替えなど小規模な調査が多くなったが、遺跡の北端部となる本調査地付近では、弥生時代後期から古墳時代後期の遺物を含む包含層の分布が確認されている。また、平成 6 年度にはマンション建設などに伴う数件の発掘調査があり、弥生時代後期から古墳時代前期初頭(庄内式上器並行期)の方形周溝墓群、古墳時代後期および中世の集落跡などが検出されている。当地においては、個人住宅建設に伴い、周辺で確認されている包含層や遺構面の広がりを追認するために、発掘調査を実施した。

遺構と遺物 現地表面は、標高約 12.4m を測る。層序は、上層より第 1 層 現代盛土層、第 2

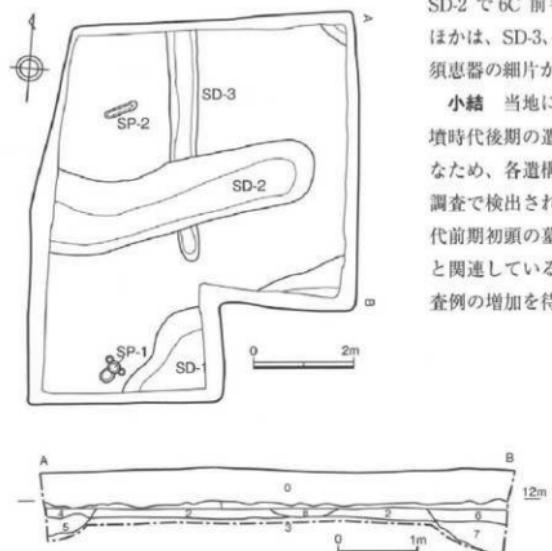
層 暗灰色砂質土(耕作関連土)、第 2 層 灰黃褐色粘質土(地山層)、第 4 層 明黃褐色粘土(地山層)となる。周辺で確認されている弥生時代後期から古墳時代後期の包含層は削平されており存在しなかった。しかし、地山層(第 2 層)には包含層の影響とみられる土壤化が及んでいる。遺構検出は、標高約 11.8m を測る第 3 層上面で実施した。検出遺構は、弥生時代後期から古墳時代後期の溝 3 条とピット 7 基である。古代や中世と考えられる遺構・遺物は検出されなかった。検出遺構の一部について概説すると、SD-1 は、調査区外に至るため全容は不明であるが、幅推定 1.5m、検出長約 5m、深さ 0.2 ~ 0.35m を測る。SD-2 は、幅約 1.25m、検出長約 5.75m、深さ 0.2 ~ 0.3m を測る。SD-3 は幅約 0.6m、検出長約 4.7m、深さ 0.05m 程度を測る。出土遺物は、SD-1 で弥生時代後期頃の土器片、



第 7 図 調査位置図



第 8 図 調査区配置図



第9図 遺構平面・東壁断面図



第10図 発掘調査風景

SD-2 で 6C 前半頃の須恵器壺が出土しているほかは、SD-3、SP-1・2 で摩滅した弥生土器や須恵器の細片がわずかに出土している。

小結 当地においては、弥生時代後期から古墳時代後期の遺構を検出した。調査範囲が狭小なため、各遺構の性格は不明であるが、周辺の調査で検出されている弥生時代後期から古墳時代前期初頭の墓域や古墳時代後期の集落域などと関連している可能性がある。今後、周辺の調査例の増加を待って検討したい。

太田遺跡 (OT09-1)

所在地 茨木市太田二丁目 22-2

開発事業 個人住宅建設事業

調査期間 平成 21 年 5 月 25 日

調査面積 12 m²

調査担当 宮本 賢治

調査結果

太田遺跡は、弥生時代から中世頃にかけて営まれた複合遺跡である。遺跡の広がる範囲は、南北に約 1.3km × 東西に約 0.5km と、南北に長く広がりをみせている。その遺跡の包蔵地の範囲は、上穂積一～四丁目付近を中心位置している。地形の様相としては、標高約 15m の千里丘陵から派生

した丘陵部に位置しており、安威川右岸にあたる地域である。なお、遺跡の包蔵地面積は、約 44 万 6 千 m² を占める。

太田遺跡の既往の本発掘調査の事例として、今回の調査地より南東方向に約 400m の場所において 2008 年度に本発掘調査が行なわれている。この調査では、平安時代から中世頃にかけての水田遺構などの耕作地が検出されている。また、古墳時代中期から後期の円墳や方墳など、11 基もの古墳群が検出されている。また、それに伴って円筒埴輪や人物、馬、鶏、家を模した形象埴輪などが出土している。

周辺の遺跡には、弥生時代中期頃～中世頃にかけての集落跡である遺跡や、郡三丁目にある郡山神社を中心に古墳が点在する郡古墳群の東方に今回の調査地は位置している。調査調査の方法としては、業者サイドとの打ち合わせを経て調査位置を決め、東西 4m × 南北 3m のトレチを設定し調査区とした。

基本層序

基本層序については、第 1 層～第 6 層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第 1 層は現代の搅乱を含む造成盛土の層である。層厚は、全体を通して概ね 1.4m を計る。第 2 層は、旧耕作上である。層厚は、概ね 0.2m を測る。なお、北側部分においては第 1 層の造成盛土による搅乱を受けており、旧耕作上の一帯は削平されて残存状況は僅かであった。第 3 層においては、暗オリーブ褐色粘質土 SC25Y3/3 の土色を持つ中世～近世頃の土器片等を含む、遺物包含層が検出されている。層厚は、概ね 0.1m を計る。なお、次項の検出遺構でも述べているが、この層は中世～近世頃の遺構埋土内である可能性があると考えている。第 4 層においては、黒褐色粘土 HC25Y3/2 の土色を持つ古代から中世遺物包含層が検出されている。層厚は、概ね 0.1m であるが、西側においては 0.04m とやや希薄に映る。第 5 層は古代の土器を含む、遺構埋土である。調査地全体が遺構埋土であると思われる事から、人溝のような構造を持った遺構だと考え



第 11 図 調査位置図

られる。なお、この遺構埋土の土色は、黒色粘土 HC25Y2/1 である。第6層は、黄灰色粗砂礫 S2.5Y5/1 の土色を持つ地山層である。

検出遺構

第1遺構面として、現GLより-1.85mから1.9mのところで中世～近世頃の土器等を含んだ層を検出した。平面及び断面観察を行なったが、遺構を検出する事ができなかった。この事から、この面は遺物包含層もしくは遺構埋土中と考えられる。遺構埋土とすると調査区内全体に渡る事から、大溝のようなものと考えられる。第2遺構面では、現GLより約-1.9mから2mのところで古代の土器等を含んだ層を検出した。第1遺構面同様、遺物包含層もしくは遺構埋土中と考えられる。

出土遺物

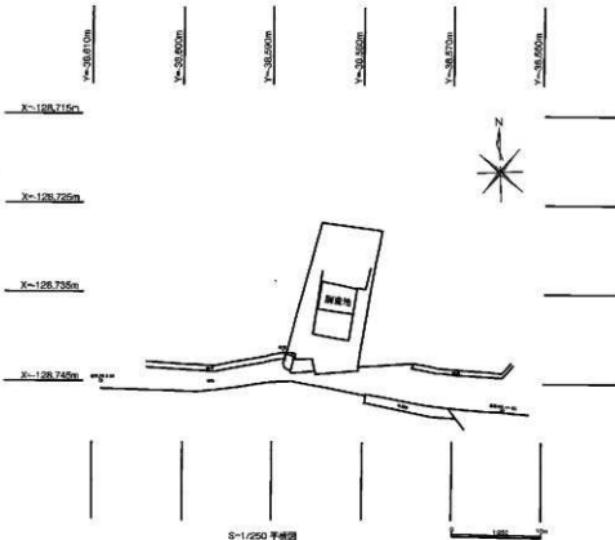
第1遺構面の遺構埋土中と考えられる層より、土師皿や中世頃の軒丸瓦片が出土している。また、第2遺構面の遺構埋土中と考えられる層より、円筒埴輪の突帯部の破片や砥石、古代のものと考えられる平瓦等が出土している。先の太田遺跡の既往調査事例でも述べたように数多くの古墳が検出されている事から、それらに関連した遺構が同地周辺において存在した可能性が考えられる。また、古代の瓦については、同地より東に600m圏内に存在していたといわれている太田廃寺に関連するものと考えられる。

まとめ

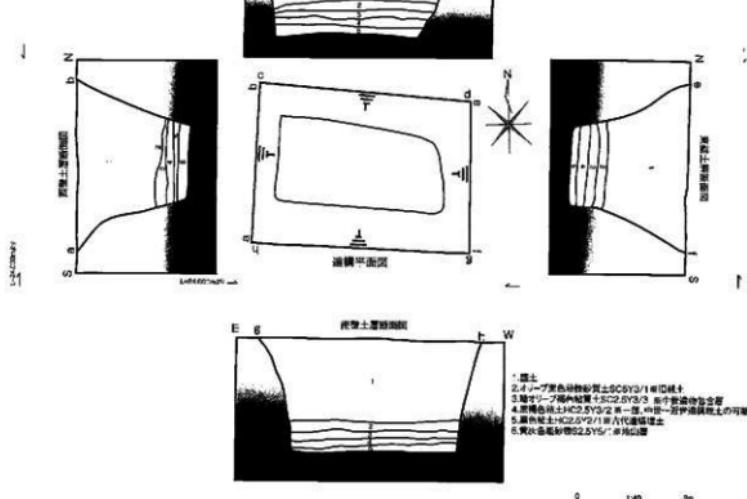
今回の調査では、調査面積が狭小な為、安全上遺物包含層の一部分までしか確認できなかった。

参考文献

茨木市立文化財資料館 第9回企画展「平成20年度発掘調査速報展」資料



S-1/250 平面図



第12図 太田遺跡(OT09-1) 平板・平面・調査区土層断面図



調査地 全景（南東より）



第1遺構面、遺構埋土検出状況（東より）



第2遺構面、地山検出状況



調査区、東壁土層断面



調査区、西壁土層断面



調査区、南壁土層断面



機械・人力掘削深度、現 GL-2m10cm



発掘調査、作業風景（南より）

第13図 太田遺跡（OT09-1）発掘調査風景



第1遺構面(中・近世頃)出土遺物



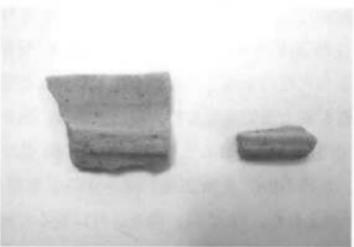
第2遺構面、遺構埋土内出土
古代、平瓦(表面)



第2遺構面、遺構埋土内出土
古代、平瓦(裏面)



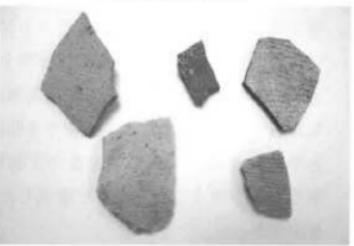
第2遺構面、遺構埋土内出土、砥石



第2遺構面、遺構埋土内出土
円筒埴輪、突帯部



第2遺構面、遺構埋土内出土
体部



第2遺構面、遺構埋土内出土遺物



第2遺構面、遺構埋土内出土遺物

第14図 太田遺跡(OT09-1)出土遺物

郡遺跡 (KH09-01)

所在地 茨木市五日市緑町 25-2

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 6 月 1 ~ 2 日

調査面積 約 44 m²

調査担当 中東正之

調査結果

経過 郡遺跡は、千里丘陵から派生した丘陵部先端から茨木川右岸にかけての標高 15m 程の沖積面に広がる、弥生時代から中世の複合遺跡である。規模は東西約 0.7km、南北約 1.2km の広範囲に及ぶ。当地は、茨木川沿いの遺跡東部に位置する。

周辺の既往の調査では、弥生時代後期から古墳時

代前期初頭（庄内式土器併行期）の集落跡や古墳時代中期から後期の造構の存在が確認されている。当地においては、住宅建設に伴い、周辺で確認されている包含層と造構面の広がりを追認するため、調査を実施した。

遺構と遺物 現地表面は、標高約 18.1m を測る畠地である。層序は、上層より第 1 層 オリーブ灰色シルト（耕土）、第 2 層 黄色シルト質土、第 3 層 暗褐色粘質土（包含層）、第 4 層 明黄褐色粘土（地山層）となる。包含層は、弥生時代後期から古代の摩滅した遺物を含んでおり整地層と考えられる。造構検出は、標高約 17.5m を測る第 4 層上面で実施した。検出遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期初頭（庄内式土器併行期）が主体と思われる土壙とピット約 60 基である。検出遺構の一部について概説すると、SK-1 は、短軸 1.4m、長軸 2.0m、深さ 0.15m を測る。埋土は暗褐色粘質土で庄内式土器の甕の破片などが出土した。SK-2 は、調査区外に至るため全容は不明であるが、東西 2m 以上、南北 0.6m 以上、深さ 0.15m を測る。埋土は暗褐色粘質土で庄内式土器が出土したが、上層からの混入遺物と思われる古墳時代後期の須恵器片や平安時代



第 15 図 調査位置図

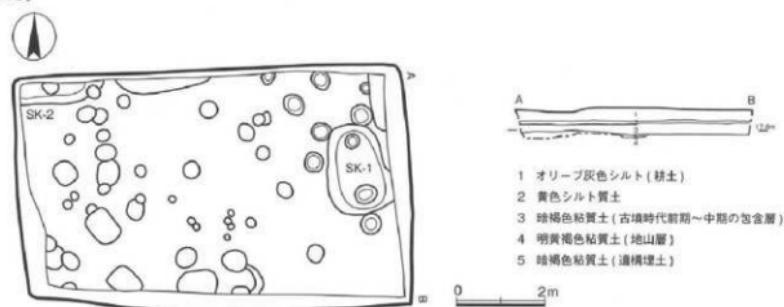


第 16 図 調査区配置図

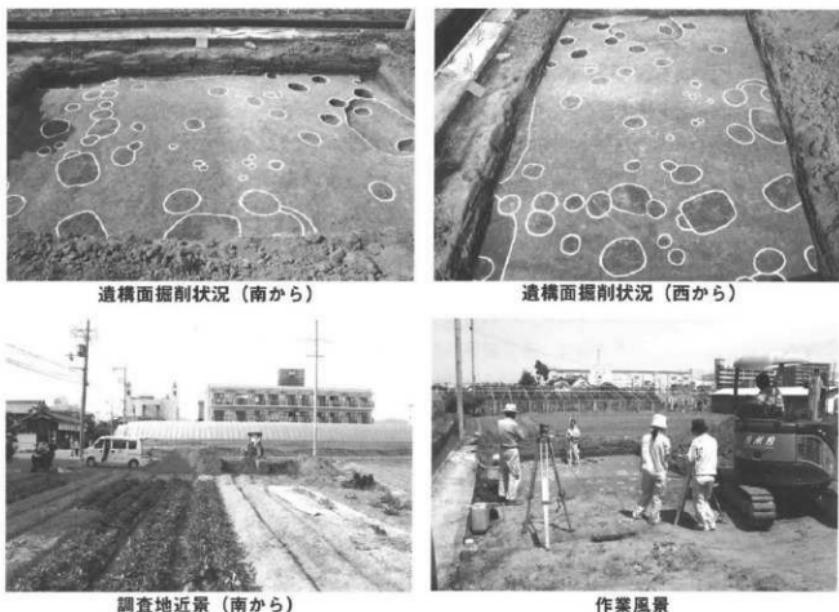
頃の陶器片なども出土した。ピットについては、その並びからは掘立柱建物を確定することはできなかった。出土遺物は、包含層から出土した庄内式土器を主体に、古墳時代後期や古代の須恵器や上師器、陶器などが出土した。總じて摩滅した破片が多かった。

小結 当地においても、周辺の調査地と同じく、弥生時代後期から古代の遺物を含む包含層と、弥生時代後期から古墳

時代前期初頭(庄内式土器併行期)の集落城を示すと思われる遺構面が広がっていることを確認した。



第17図 遺構平面図・東壁断面図



第18図 発掘調査風景

五日市遺跡 (II09-01)

所在地 茨木市上野町 88-8

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 6 月 4 日

調査面積 約 14 m²

調査担当 中東正之

調査結果

経過 調査地の位置する五日市遺跡は、茨木川左岸の上野町あたりに広がる遺跡である。茨木川流域は、度重なる水害から、昭和 12 年にはじまる安威・茨木両川改修工事で、蛇行していた河道はおおきく改修されている。改修まもない頃(終戦直後と思われる)の航空写真(第20図)をみると、

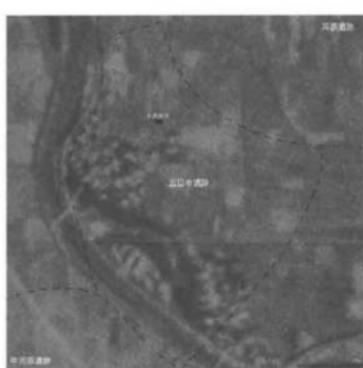


第 19 図 調査位置図

依然として旧河道の残る様子がわかる。既往のおもな調査では、平成 7 年度から 9 年度にかけて、名神高速道路拡幅工事に先立ち名神高速道路内遺跡調査会が実施した発掘調査で、複数の自然流路とともに近世の耕作痕跡や水利施設が発見され、中世から近世にかけての遺物が多数出土している。また平成 11 年度の本市による発掘調査では、名神高速道路の南側で奈良時代から中世の遺構や遺物が検出されている。五日市遺跡の北域では、発掘調査に至った例はほとんどなく得られた知見は少ない。試掘調査では洪水層の堆積を見ることが多いが、本調査地の西側に近接する住宅地の試掘調査では、現地表面下 1.7m で土師器を含む包含層として黄灰褐色粘質土層の検出が報告されている。そのため、杭打ち工事の実施される当地においては発掘調査を実施することとなった。調査方法は、隣接建物への控えと排土置き場を確保した結果、長さ約 5m、幅約 3m の調査区とし、現地表面下 2.2m の地山層付近までバック・ホーで掘り下げ、人力によ

る遺物収集と精査、実測を実施した。検出面積は、オープンカット工法のため約 3.3 m² と狭小なものとなつた。

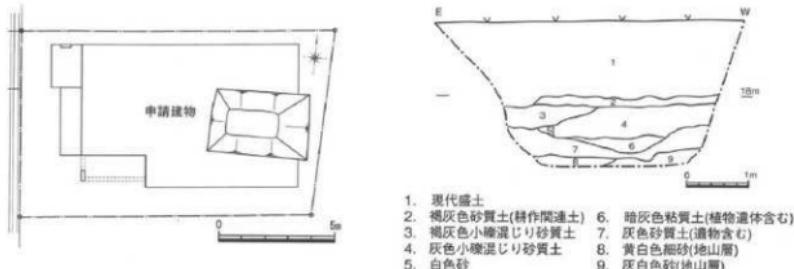
遺構と遺物 層序は、上層より現代盛土層(1.2m)、耕作関連土層(第 2 ~ 3 層 0.15 ~ 0.35m)、洪水土などの砂質土層(第 4 ~ 7 層 0.45 ~ 0.8m)、地山層となる。西側近接地で検出された黄灰褐色粘質土層は検出されなかつたが、灰色砂質土層(第 7 層)中より瓦質羽釜片と土師器細片が出土した。地山面の標高は約 17m で遺構は検出されなかつた。出土した羽釜は錆の剥落した口縁部のみで残高 4cm、内外面は横ナデで外面に凹線二条が施されている。



第 20 図 五日市遺跡航空写真(終戦直後)

土器は摩滅した細片のため詳細は不明である。

小結 遺跡の北域に位置する当地の様相は、調査区が狭小なため十分な確認はできなかったが、既往の調査の集中する南域の名神高速道沿いとほぼ同じ、標高17m前後の、氾濫原特有の砂粒を多く含む地山層が分布している。中近世遺物を含む洪水土がこれを覆う層序も同様で、遺跡のほぼ全域で茨木川の影響が大きいものと思われる。当地では遺構は検出するには至らなかつたが、旧河道に近い場所であっても自然堤防上など遺構面が良好に遺存している可能性があり、今後の発掘調査に期待したい。



第21図 調査区配置図・南壁断面図



調査区掘削状況（西から）



南壁面検出状況



五日市遺跡遠景（茨木川堤防から南方を望む）



調査地全景（西から）

第22図 発掘調査風景

倍賀遺跡 (HK09-01)

所在地 茨木市春日四丁目 508-4・280-3

開発事業 個人住宅新築工事

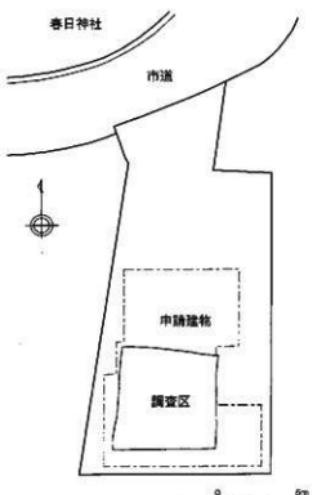
調査期間 平成 21 年 6 月 25 ~ 26 日

調査面積 約 49 m²

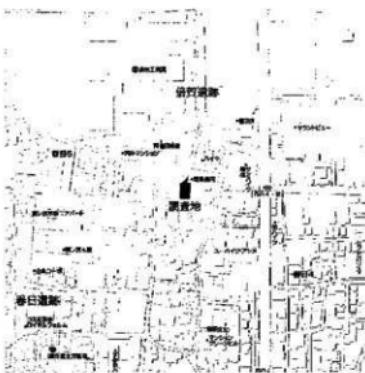
調査担当 中東正之

調査結果

経過 倍賀遺跡は、弥生時代中期から中世の複合遺跡である。地形的には、千里丘陵より派生した段丘の先端部と茨木川が形成した沖積面に立地している。当地は、遺跡範囲の南端部、鎌倉時代の石灯籠を有する春日神社の門前に位置する。周辺の既往の調査としては、昭和 61 年度に当地の北西約 100m に位置する春日保育所で、弥生時代中期の方形周溝墓や弥生時代後期および古墳時代後期の溝の一部が検出されているほか、平成 3 年度に春日保育所の東側のマンション（マウンタビュー）において、弥生時代中期の方形周溝墓や古墳時代後期の住居跡などが検出されている。また、周辺における試掘調査による堆積層確認では、弥生時代後期から古代および中・近世の包含層の普遍的な広がりが確認されている。当地においては、個人住宅建設に先立ち、包含層や遺構面の広がりを追認するため、調査を実施した。



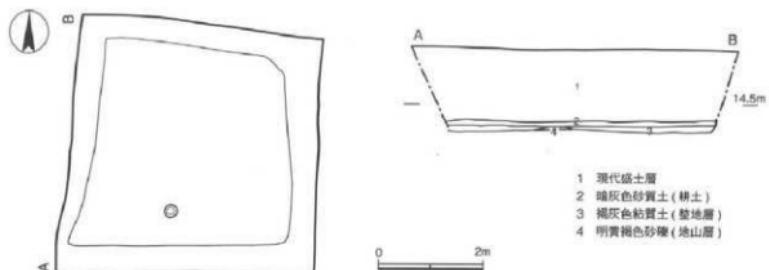
第 24 図 調査区配置図



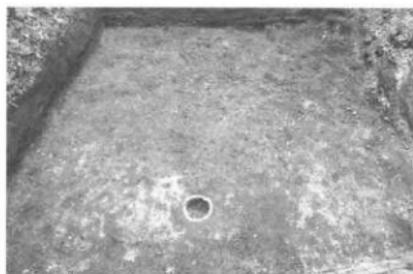
第 23 図 調査位置図

遺構と遺物 現地表面は、標高約 15.6m を測る。層序は、上層より第 1 層 現代盛土 (1.4m)、第 2 層 暗灰色砂質土 (耕土 0.1m)、第 3 層 褐灰色粘質土 (整地土 0.1m)、第 4 層 明黄褐色砂礫 (地山) となる。周辺で普遍的に確認されている包含層は検出されなかった。遺構検出は、標高約 14m を測る第 4 層上面で実施した。検出遺構は、ピット 1 基のみである。ピットは、径 0.3m、深さ 0.1m を測る。埋土は整地土と同様の褐灰色粘質土である。遺物は、全く出土しなかった。

小結 当地においては、包含層は検出されなかった。検出遺構も周辺におけるものと属性の違うものと考えられる。遺構検出面である地山層上面は砂礫であり、周辺の既往の調査においても、砂礫からなる地山層は遺構が少なく、粘性土で構成される地山層にくらべて遺構の疊密が明確である。これは、方形周溝墓などが構築しやすい場所を選んだためと思われる。



第25図 造構平面・東壁断面図



造構面完堀状況（南から）



西壁断面検出状況



作業風景（南西から）



調査地内より春日神社を望む（南から）

第26図 発掘調査風景

中条小学校遺跡 (CJ09-2)

所在地 茨木市下中条町 51-6・51-7

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 7 月 14 ~ 15 日

調査面積 約 21 m²

調査担当 中東正之

調査結果

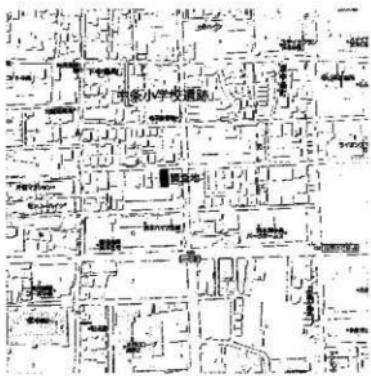
経過 中条小学校遺跡は、弥生時代中期から中世に至る複合遺跡である。地形的には、千里丘陵からのびる低位段丘と茨木川が形成した沖積面に立地する。その包蔵範囲は、東西約 0.4km、南北約 1km である。早くから市街化のために住居の建替えなどに伴う小規模な調査が多くあったが、

近年はマンション建設に伴う調査もあり、遺跡の全容が徐々に明らかとなってきた。当地は遺跡範囲の中央部に位置する。周辺の既往の調査によれば、弥生時代から古墳時代および中世の包含層と遺構面の普遍的な広がりが確認されている。とくに当地南側に近接するマンションと社宅の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期初頭(庄内式土器併行期)の建物跡などが検出され、集落の存在が明らかとなっている。当地では個人住宅建設に伴い、同時期の集落域の広がりなどを追認するために、調査を実施した。

遺構と遺物 現地表面は標高約 10.1m を測る。層序は、上層より第 1 層 現代盛土、第 2 層 暗

灰色シルト質土(耕土)、第 3 層 灰色土、第 4 層 黄灰色土、第 5 層 灰黄色粘質土、第 6 层 黄灰色粘質土、第 7 層 暗褐色土(包含層)、第 8 層 明黄褐色砂質土(地山層)である。これらの層のうち、第 7 層が包含層である。

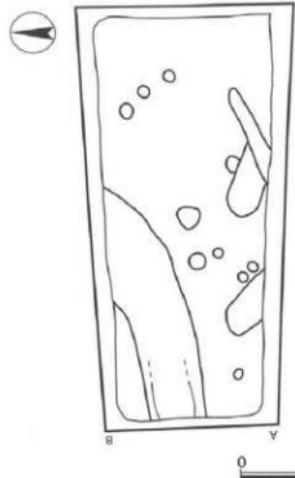
弥生時代後期の土器を含み、時期幅のある包含状況は確認できなかったが、周辺で普遍的に広がる弥生時代から古墳時代の包含層に相当するものと思われる。また、第 5・6 層はその層相から中世包含層に該当すると考えられるが、遺物の包含や遺構の存在は認められなかった。遺構検出は、第 8 層上面を検出面として実施した。その標高は約 9.15m を測る。検出遺構は、溝とピットである。溝について概説すると、幅約 1m、検出長約 4m、深さ 0.15m 程度を測る。掘削した範囲では、遺物は出土しなかった。出土遺物は、包含層から出土した弥生時代後期の甕と思われる摩滅した土器片のみであ



第 27 図 調査位置図

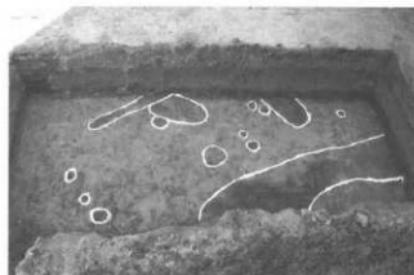


第 28 図 調査区配置図



第29図 遺構平面図・西壁断面図

- 1 現代粘土層
- 2 緑青灰黒シルト質土 (積土)
- 3 灰色土
- 4 黄灰色土
- 5 灰青色粘質土
- 6 黄灰色粘質土
- 7 暗褐色土 (包含層)
- 8 明青褐色砂質土 (地山土)
- 9 暗褐色粘質土 (溝壁土)
- 10 哈褐色粘質土に地山ブロック混 (溝壁土)



遺構面掘削状況（北から）



遺構面掘削状況（東から）



作業風景（西から）



調査地全景（北から）

第30図 発掘調査風景

郡遺跡 (KH09-2)

所在地 茨木市上穂積二丁目 43-6

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 7 月 15 日

調査面積 約 4 m²

調査担当 関 桦

調査結果

位置と環境 郡遺跡は、茨木市の西北部、千里丘陵から派生した丘陵部に位し、南北に 12km、東西に 0.7km に範囲を有する弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。

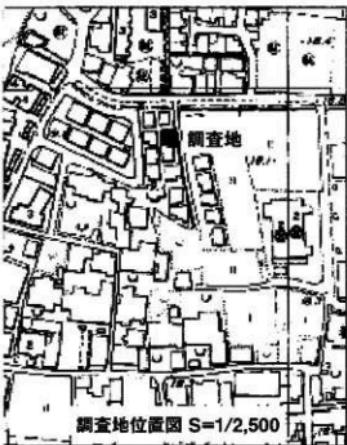
今回の調査地は郡遺跡の南西部に位置し、調査区の北側では、大阪府住宅供給公社上穂積団地の建設に伴い昭和 48 年に発掘調査が行われ、弥生時代中期から後期の方形周溝墓・竪穴住居・井戸、古墳時代中期から後期にかけての古墳や馬の埋葬土壙が検出され、さらに奈良時代から平安時代の掘立柱建物跡・溝なども検出されている。また、調査地の南西に位置する西公民館の建設に伴う昭和 55 年の発掘調査では、弥生時代中期の方形周溝墓が検出され土器類が多数出土している。

今回の調査は、埋蔵文化財の確認調査を行うために現地に出向いたところ、建設予定地の全面において既に柱状改良工事が行われていたため、急速調査を実施した。その結果、現在の地表面 (GL) から -1.3m の地山面にて遺構が検出されたため、国庫補助事業による発掘調査を行うこととなった。

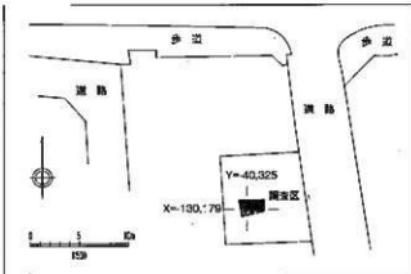
調査は、試掘調査箇所を拡張するかたちで行った。しかし、敷地の全面で柱状改良工事が既になされていたため、調査区は南北 2.5m、東西 1.5m と狭小となった。

基本層序

現地表面は、標高約 19.5m をはかる。現地表面から約 1.3m で地山を確認した。層序は、上層より現代盛土層 1.0m、旧耕作土層が 15cm、床土が 5 cm であり、その下に遺物包含層である灰褐色粘質土層（マンガン含む、層厚 10cm）が認められた。この遺物包含層の下層は地山面である。地山層検出面のレベルは約 TP18.2m であった。



第 31 図 調査位置図



第 32 図 調査区位置図

検出遺構

今回の調査では、遺物包含層直下の地山面においてピットを数基検出した。これらの遺構に伴う遺物は確認できなかったため、遺構の詳細な時期は不明である。

出土遺物

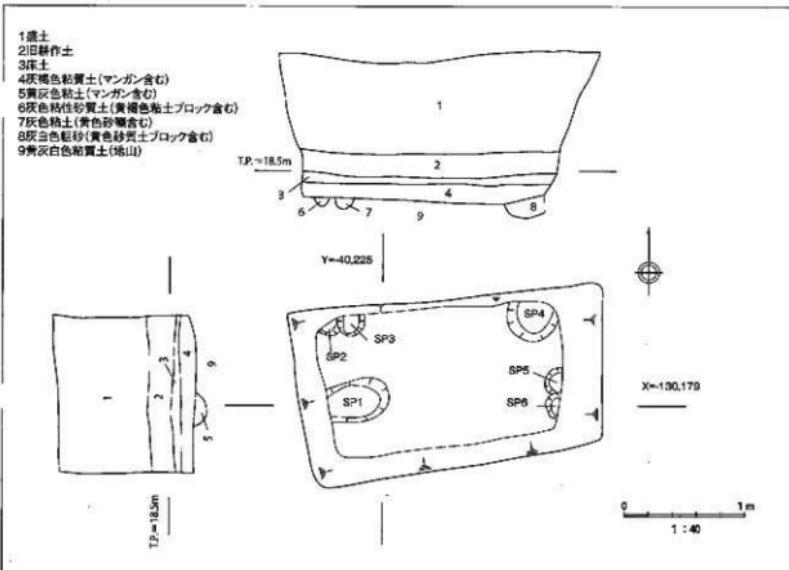
出土遺物は、包含層より数点の土器片が出土したがいづれも細片であり、器種や時期を特定できるものではなかった。

まとめ

今回の調査区は郡遺跡の南東部に位置し、近隣では既往の調査も行われている。また、それらの調査においては弥生時代と想定される数多くの遺構が検出され、遺物も出土していることから、今回の調査において検出したピットについても弥生時代の遺構である可能性が高い。しかし調査面積が狭く、詳細な検討を行えるだけの情報を得ることができなかつた。

参考文献

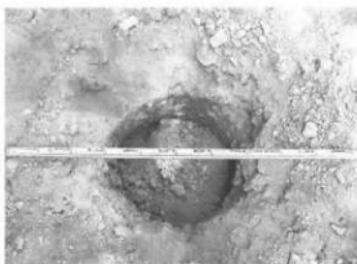
茨木市教育委員会 2005 「郡遺跡発掘調査概要報告書— 茨木市立生涯学習センター建設事業に伴う発掘調査概要報告—」



第33図 調査区平面・断面図



調査地全景



土壤改良杭埋設状況



試掘時遺構検出状況



試掘時出土土器片



北壁土層断面（西半部）



北壁土層断面（東半部）



西壁土層断面



遺構検出状況（地山面）

第34図 郡遺跡(KH09-2) 遺構面検出状況

中条小学校遺跡 (CJ09-3)

所在地 茨木市下中条町 126-4

開発事業 個人住宅建設事業

調査期間 平成 21 年 8 月 6 日～7 日

調査面積 6 m²

調査担当 宮本 賢治

調査結果

中条小学校遺跡は、新中条町にある中条小学校を中心に、南北約 0.8km × 東西に約 0.4km の西中条町・下中条町・小川町にかけて南北に長細く広がる、弥生時代中期から中世にかけて継続的に営まれた複合的な集落遺跡である。今回の調査地は、中条小学校遺跡のほぼ中央に位置しており、南方には近年小銅鐸が出土した弥生時代前期から中・近世頃にかけての集落である東奈良遺跡があり、北方には弥生時代中期後半から古墳時代後期にかけての住居跡がみられる駅前遺跡が存在する。中条小学校遺跡の当市教育委員会による既往の調査からは、古墳時代中期頃の堀立柱建物跡を中心とした住居跡や群集墳などの古墳が多く見られる。また、その後の空白時期をおいて平安時代中期から後期頃の黒色土器楕 A 類や同 B 類も出土している。なお、中条小学校遺跡の包蔵面積は、約 38 万 2 千 m²となる。

今回の調査においては、主に弥生時代後期から古墳時代と中世頃の生活面を調査の対象とした。なお、今回は平成 21 年度の中条小学校遺跡における発掘調査として、第 3 次目 (CJ09-3) となる。

基本層序

基本層序については、第 1 層～第 5 層に大別する事ができる。層序は上層より順に、第 1 層は現代の造成盛土を含む層である。層厚は、全体を通して概ね 0.6m を計る。2 層は旧耕作土で、層厚は概ね 0.1m であるが、南側において一部 1 層目の盛土層に削平されている状況であった。3 層目は、中世遺物包含層である。土性は黄灰色粘質土 SC2.5Y5/1 を主体とし、暗オリーブ色砂粒 S2.5Y3/3 混じる。層厚は、西壁調査区上層断面中においては概ね 0.1m を計るが、南壁調査区上層断面中においては約 0.2m の層の厚さがあり、西壁のこの層は後世に削平されたものと思われる。4 層においては、古代から中世頃にかけての生活面となる。土性は黒褐色粘性砂質土 SL2.5Y3/1 を主体とし、それにオリーブ褐色砂質土ブロック SCL2.5Y4/3 とややマンガン質を含む。層厚は概ね 0.2m を計る。5 層は、灰色砂質土 SL7.5Y4/1 を主体とし、灰オリーブ色砂質土ブロック LS7.5Y5/3 を含む。中世頃の生活面を検出して調査の対象とした。5 層は、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の土器を含む層が検出された。黄灰色粘土 HC2.5Y5/1 の層を主体とし、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の遺物包含層である。層厚は、西側箇所においては約 0.1m、



第 35 回 調査位置図

北側箇所においては約0.16m、南側箇所では約0.3mを測る事から南側では残存状況が極めて良好な様相がみられる状況であった。6層は、地山層である。この面において、弥生時代後期頃～古墳時代前期頃の遺構を検出している。黄灰色粘質土SC2.5Y6/1を主体とし、黄色砂S2.5Y7/8が混じる層である。

検出遺構

今回の調査において検出された遺構は、第1遺構面では、ピット状遺構9基、溝状遺構1条、落ち込み状遺構1基である。存続時期については出土遺物から中世頃が比定できるが、そのほとんどが埋没している事から詳しい時期については不詳である。それぞれ検出された遺構の規模であるが、調査区中央部から北側にかけて検出された落ち込み状遺構であるが、南北検出幅約1.7m、東西も幅約1.7mであるが、南北幅については調査区外になる為にその形状は不明である。深度は0.2mと比較的浅く、遺物も出土していない事からどのような意図で造られたのかは不明である。断面形態は、北側の肩部が調査区外に伸びる事から、全容は不明であるが南側の肩部から推定すると逆台形を呈するものと思われる。

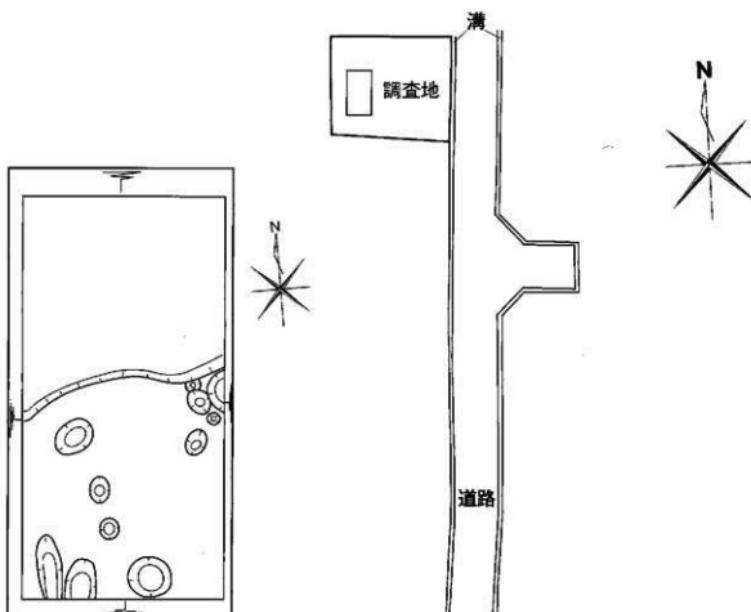
第2遺構面では、上の面に比べて遺構の数はやや希薄に映る。ピット状遺構1基、上槽状遺構2基が検出された。

出土遺物

今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド(縦14×横36×奥行き56cm)に換算して1箱分である。その種類と内訳は、古墳時代の須恵器や平安時代の頃の須恵器や上飾皿などの遺物が出土している。

まとめ

今回の調査から、第1遺構面では中世頃の生活遺構面を検出し、また、第2遺構面では弥生時代後期頃から古墳時代初頭にかけての生活遺構面を検出した。これらの成果を基に、今後は既往の調査と照らし合わせて、中条小学校遺跡の集落の歴史的背景を検討してあきらかにしていきたい。



第1 遺構面 平面図

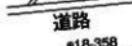
0 1:20 2m



- 1.暗灰青色粘土HC2.5Y4/2に明黄褐色砂粒S2.5Y6/8混じる。※マンガン含む
- 2.黄灰色粘質土SC2.5Y5/1に黄色砂粒S2.5Y7/8混じる。
- 3.暗オリーブ褐色粘質土SC2.5Y3/3

平板図

0 1:200 20m



e18-358



- 1.黒褐色粘質土SC2.5Y3/2にオリーブ褐色砂粒S2.5Y4/6混じる。
- 2.黒褐色粘土HC10YR2/3
- 3.褐灰色砂質土SICL10YR6/1に明黄褐色砂粒S10YR6/8混じる。

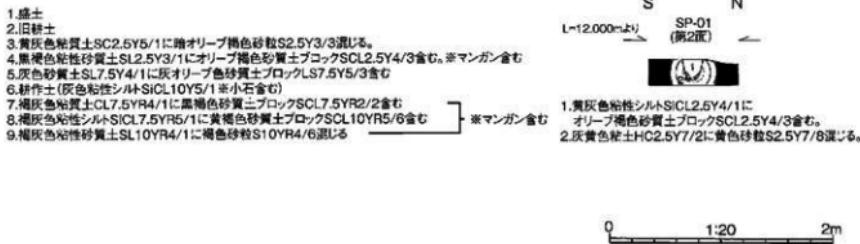
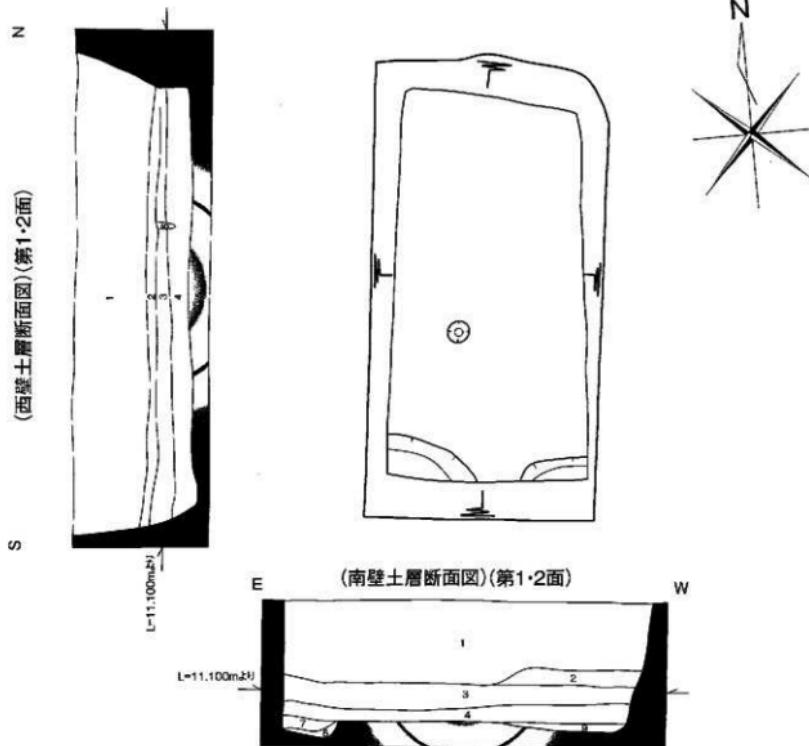


- 1.褐灰色粘土HC10YR4/1※マンガン含む
- 2.黒褐色粘質土SC10YR3/2に、明黄褐色砂粒S10YR6/4混じる。
- 3.灰黃褐色粘質土SC10YR5/2に、黃褐色砂質土ブロックSIC10YR5/6含む。
- 4.暗褐色粘土SICL10YR3/3に、黃褐色砂粒S10YR5/6混じる。

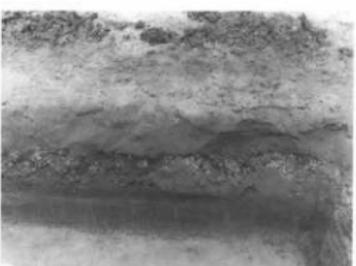
0 1:20 2m

第36図 中条小学校遺跡 (CJ09-3) 平板図、第1遺構平面図・セクション図

(西壁土層断面図)(第1・2面)



第37図 中条小学校遺跡(CJ09-3) 第2構造平面図・セクション図、調査区西壁・南壁土層断面図



第38図 中条小学校遺跡(CJ09-3) 遺構検出状況

郡遺跡 (KH09-3)

所在地 茨木市上穂積四丁目 1052-3

開発事業 個人住宅建設事業

調査期間 平成 21 年 8 月 18 日

調査面積 6.0 m²

調査担当 宮本 賢治

調査結果

郡遺跡は、弥生時代前期から鎌倉時代頃にかけて當まれた集落遺跡である。遺跡の包蔵地範囲は南北に約 1.2km × 東西に約 0.7km と、その形状は、南北に長く広がっている。その包蔵地面積は、約 76 万 4 千 m² を占める。北から、上郡一丁目、郡三丁目、五日市緑町、東は畠田四丁目、

南は春日五丁目、西は上穂積二から四丁目にあたる。地形の様相としては、標高約 15m の千里丘陵から派生した丘陵部の先端付近に位置しており、茨木川右岸にあたる地域である。

郡遺跡の既往の調査事例として、平成 2 年度に茨木市立中央図書館設立に伴う事前の本発掘調査において包含層内より弥生時代前期後半頃(摂津地域の弥生時代の土器編年 L3 か L4 様式に相当)のものと思われる広口壺が出上している。近年においては、生涯学習センター設立に伴う事前の本発掘調査では、弥生時代中期の方形周溝墓 27 基や鎌倉時代の遺構が多く検出されている。

また、律令期に入ると鶴下郡に属す地域となる。郡の官人である郡司が政務を執った役所である郡衙が、古代に整備された幹線道路である旧山陽道沿いにあったと推定される地域でもある。

郡遺跡の周辺の遺跡には、弥生時代中期頃から中世頃にかけての集落跡である中河原遺跡が北に隣接している。なお、この中河原遺跡から弥生時代中期頃の方形周溝墓が数基検出されている。また、北東に接する位置には、奈良時代頃から中世にかけての集落跡である五日市遺跡が存在する。この他には、北西に隣接する位置には中河原遺跡と同様に、弥生時代中期頃の方形周溝墓や奈良時代前期頃の建物跡と考えられる、楓石と礫板が施された掘立柱建物跡が検出された郡山遺跡が存在する。南東方向には弥生時代中期頃の方形周溝墓や古墳時代後期頃の集落跡が検出されている、倍賀遺跡が存在する。南方においては、弥生時代から始まる集落跡である春日遺跡があり、南西に接する地域には古代の有力な氏族である穂積氏によって創建されたといわれている穂積廢寺跡が存在する。このように、郡遺跡周辺には上記に挙げた 6 つの遺跡に囲まれるように包蔵されている事が分かる。

調査の方法としては、業者サイドとの打ち合わせを経て調査位置を決め、東西 2m × 南北



第 39 図 調査位置図

3mのトレンチを設定し調査区とした。

基本層序

基本層序については、第1層～第3層に大別する事ができる。上層より順に、第1層は現代の盛土層である。層厚は、約1.4mを測る。第2層は、無遺物層である。土性は、褐色粘質土で、層厚は約0.05mを測る。周辺の既往本発掘調査や試掘調査においては、この土性を持つ層から古代の遺物を包含する事が多いのであるが、当調査地では後世の盛土等による削平を受けたものと思われ、かなり希薄に映る。第3層は、地山層である。土性は、黄色粘質土である。なお、この地山層において、ピット状遺構を1基検出している。

検出遺構・出土遺物

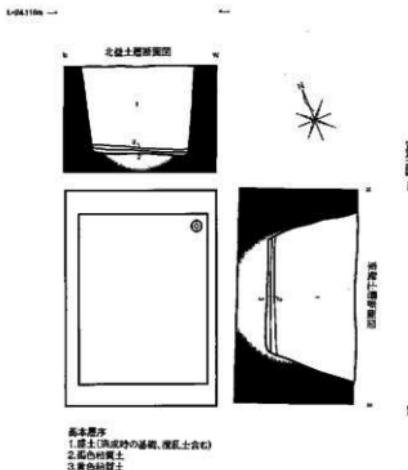
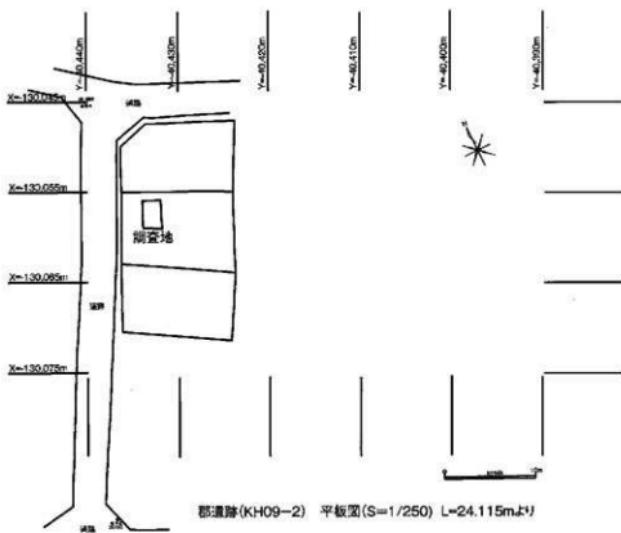
調査区の北東隅の地山層において、ピット状遺構を1基検出している。この遺構の規模は直径0.2m、深さ0.15mを測る。ただし、今回の調査では遺物の出土が皆無の事から、その詳細時期は不明である。

まとめ

今回の調査からピット状遺構を1基検出したが、遺物が出土していない事からその性格や詳細な時期を判断する事ができなかった。今後の周辺での調査および、成果に期待するものである。

参考文献

茨木市教育委員会『平成3年度発掘調査概報』平成4年3月



第40図 都遺跡(KH09-3) 平板図・平面図・土層断面図



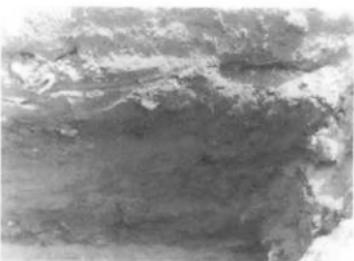
遺構検出状況（西より）



北壁土層断面



東壁土層断面（西より）



東壁土層断面・南半部（西より）

第41図 郡遺跡（KH09-3）遺構検出状況

鯰川遺跡 (AY09-1)

所在地 茨木市鯰川 74-18

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 8 月 25 日～26 日

調査面積 約 12 m²

調査担当 関 桦

調査結果

位置と環境

鯰川遺跡は、茨木市の東南部、安威川の東岸に広がる遺跡である。鯰川遺跡は既往の調査において弥生時代から中世までの遺物が出土していることから、弥生時代から連続と集落が営まれた地域と考えられる。しかし、発掘調査事例が少なく、遺跡の全容はいまだ不明である。

基本層序

現地表面は、標高 6.8m をはかる。調査区では上から現代盛土層、旧耕作土層(10cm)、7.5YR4/2 灰褐色粘質土マンガン含む(中世遺構面、厚さ約 10cm)、10YR4/2 灰黄褐色粘質土(古代遺物包含層、厚さ 15cm)、10YR5/1 灰色粘性シルト(厚さ 10cm)、2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土(厚さ 15cm)、7.5Y4/1 灰色砂質土(厚さ 8 cm)、N4/1 灰色砂、1 ~ 2 cm の礫多く含む(旧河川堆積層、厚さ 8 cm 以上)の 8 層を確認した。

当調査地は、住宅建設に伴い深さ約 4 m の柱状改良が部分的に施される。そのため、当該地における遺構面の深度を確認するため調査区北側で深堀を行った。結果、第 4 層直下からは砂層になり、現地表面から -2.5m 付近において川原石と思われる径 1 ~ 2 cm の礫を多く含む砂礫層を確認した。

のことから、近くを流れる安威川の旧河道であった可能性が考えられる。

検出遺構

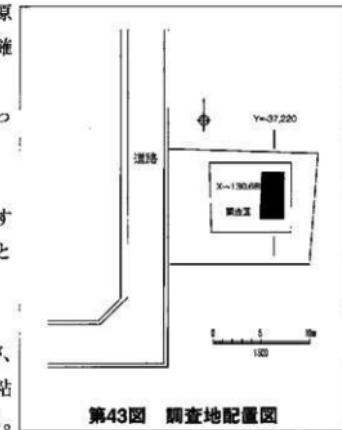
今回の調査において検出した遺構は、中世に属すると考えられる南北方向の溝 1 条と、古代のものと考えられる南北方向の鍔溝を挙げることができる。

出土遺物

灰褐色粘質土層から土師器片・瓦器片・丸瓦が、溝の埋土より土師器・瓦器碗の小片が、灰黄褐色粘土層から須恵器片・土師器片・瓦器片が出土している。



第 42 図 調査位置図



第 43 図 調査地配置図

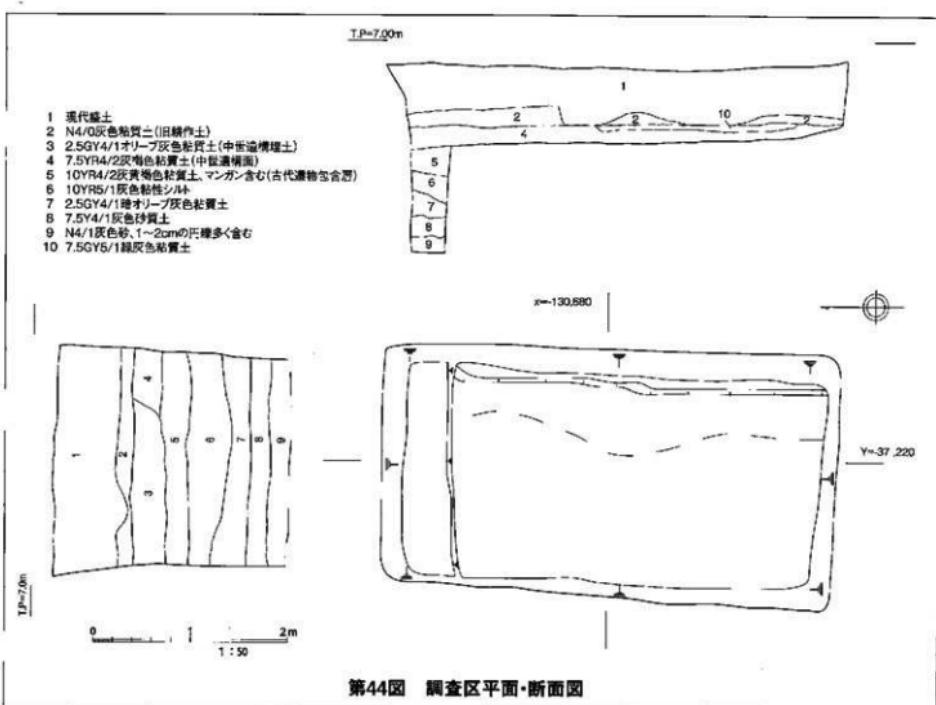
暗オリーブ灰色粘質土の上面で鋤溝を検出したおり、層中からは須恵器片・土師器片が出士している。これらは、いずれも細片であり図化できるものはなかった。

なお、調査区北部で行った深堀において、現地表面から-3.0mの砂礫層から弥生土器壺体部片と口縁部から約1cmの部分にゆるい屈曲をもち、内外面にナデ調整の痕跡が明瞭に残る、器高約5cmの古代の土師器碗が出土している。

出土した砂礫層の状況から、両遺物は旧河川によって運ばれたものと考えられるが、土師器碗はその調整痕跡を明瞭に観察できることから、調査区と比較的近い場所から運ばれた可能性が高い。

まとめ

今回の調査成果から、当該地は弥生時代から古代にかけては自然河川が存在し、中世ごろにその河川が移動したことにより開墾され、現代まで農地（水田）として利用されたという変遷を想定する。



第44図 調査区平面・断面図



調査地全景（西側から）



遺構検出状況（南から）



東壁土層断面（北半部）



東壁土層断面（南半部）



北壁土層断面



第1遺構面出土遺物



砂層出土遺物



砂疊層出土土器

第45図 鮎川遺跡（AY09-1）遺構面検出状況

茨木遺跡 (IK09-3)

所在地 茨木市別院町 1357-1

開発事業 個人住宅建設事業

調査期間 調査期間 平成 21 年 9 月 24 日～25 日

調査面積 14.5 m²

調査担当 宮本 賢治

調査結果

茨木遺跡は、上泉町・元町・本町・片桐町・宮元町・大手町にかけて広がる、弥生時代から中・近世にかけて営まれた集落跡である。遺跡の範囲は、東西約 0.4km × 南北約 1km の南北に長く広がっている。遺跡の包蔵地面積は、約 47 万 4 千 m² を占める。その中でも、片桐町・本町・元



第 46 図 調査位置図

町を中心に広がる茨木城跡の範囲が推定されており、平成 18 年度の調査において城の濠と考えられる大溝より欄間や建具などが保存の良い状態で出土している。また、南方には平成 4 年度から同 7 年度まで大阪府立茨木高等学校の建て替えに伴う試掘調査が大阪府教育委員会によって行われ、この時の調査によって新庄遺跡の存在が知られるようになった。この調査により、弥生時代前期から古墳、平安、中世、そして近世までの複合遺跡の様相が新たに判明している。特に弥生時代後期の堅穴式建物跡からは、北東辺に出入りを持ち、南東辺にベッド状施設を有する遺構が検出されている。

今回は、専用住宅建設に伴い事前に施主の方との協議を経て、今回の本発掘調査を実施するに至った。

今回の調査では 16 ~ 17 世紀頃の生活面を中心とした面を第 1 遺構面、16 世紀頃の生活面を中心とした第 2 遺構面、中世頃の生活面を中心とした面を第 3 遺構面とした。

基本層序

基本層序については、第 1 層～第 5 層に大別する事ができる。上層より順に、第 1 層、現代の盛土層である。層厚は、概ね 0.9m を測る。第 2 層は中世～近世遺物を含む、第 1 遺構面直上包含層である。土性は灰色粘質土 SC7.5YR5/1 を主体として、黄褐色砂粒 S10YR5/6 が混じる。また、炭を含む。層厚は、概ね 0.1 ~ 0.4m を測る。第 3 層は、中世～近世頃にかけての生活面(第 1 遺構面)である。土性は灰色粘性シルト SiCL10Y4/1 を主体とし、一部植物遺体が含まれる。層厚は、概ね 0.2m を測る。北壁調査区上層断面中におけるこの生活面において、ピット状遺構 1 基、土壤状遺構を 1 基検、また西壁調査区土層断面中におけるこの生活面において、摩滅した土師皿の破片を含むピット状遺構 1 基を検出している。第 4 層は、間層である。土性は灰色粘性シルト SiCL10Y4/1 を主体として、浅黄色砂 S7.5Y7/3 が混じる。層厚は、概ね 0.3m を測る。第 5 層は、自然堆積層である。土性は、オリーブ黒色粘土上

HC10Y3/2 を主体とする。第6層は、自然堆積層である。上性は、灰色細砂 S5Y5/1 を主体とする。

検出遺構

今回の調査において、中・近世を中心とした生活面を検出している。検出された遺構としては、第1遺構面ピット状遺構16基、溝遺構1条、土壌状遺構1基である。特にSP-01内より、近世頃のものと思われる曲げ物の蓋が出土している。この曲げ物の蓋については、後続の検出遺物の稿において述べる事とする。なお、このSP-01の規模は、南北検出長0.5m、東西検出長0.4m以上、深度は約0.17mである。なお、東西検出長の東側部分については調査区外に伸びる為、詳細の規模は不明である。

出土遺物

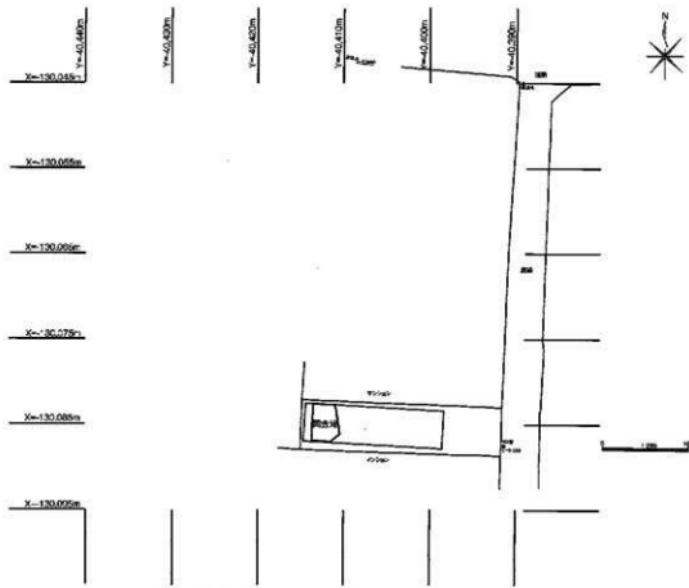
今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド(縦14×横36×奥行き56cm)に換算して1箱分である。その種類と内訳は、古墳時代の須恵器や平安時代の頃の須恵器や土師皿などの遺物が出土している。なお、第1遺構面SP-01内より、近世頃のものと思われる曲げ物の蓋が出土している。この曲げ物の蓋は半分ほどしか残っておらず、残存口径の直径が約12cmを測る。

まとめ

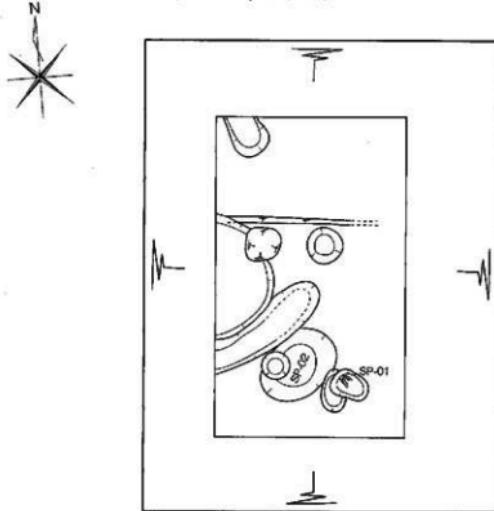
今回の調査から、中世頃から近世頃にかけての集落跡の一端が少ないながらも判明した。茨木遺跡内の本調査の事例は、近年においては増加傾向はあるが、少ないので現状である。今後の周辺での調査および成果に期待するものである。

参考文献

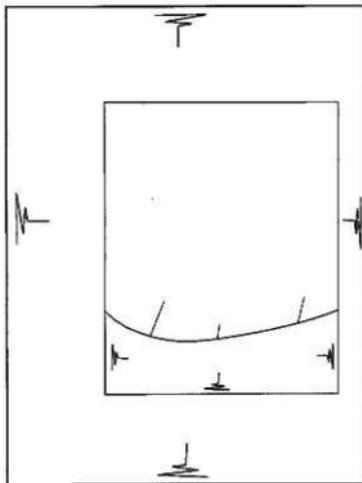
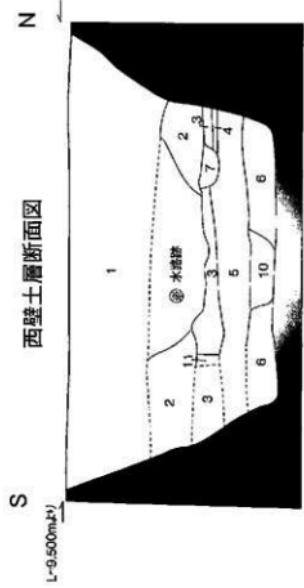
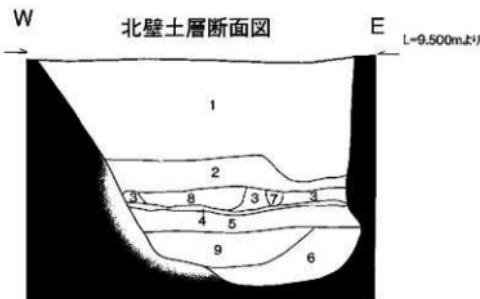
茨木市教育委員会「平成18年度発掘調査概報」平成18年3月



茨木遺跡(IK09-3) 平板図 S=1/250



0 1:40 2m



1. 盛土
2. 灰色粘質土SC7.5Y5/1に黄褐色砂粒S10YR5/6混じる。※炭含む。中世～近世の遺物包含層
3. 灰色粘性シルトSiCL10Y4/1※植物遺体含む。中世～近世にかけての生活面
4. 灰色粘性シルトSiCL10Y6/1に浅黄色砂S7.5Y7/3混じる。※間層
5. オリーブ黒色粘土HC10Y3/2※植物遺体(木片、焼けた木片含む)
6. 灰色細砂S5Y5/1
7. にぶい黄色粘性シルトSiCL2.5Y6/3※植物遺体含む(北壁)。 土師皿含む。(西壁)
8. 黄灰色粘性シルトSiCL2.5Y6/1※植物遺体含む
9. 黄灰色砂礫S2.5Y6/1に暗緑灰色粘土ブロック(2~3cm)HC10G4/1含む。
10. 灰オリーブ色砂礫S5Y6/2に褐色粗砂S7.5YR4/6の互層
11. 灰色粘性シルトSiCL7.5Y6/1※植物遺体含む
- ㊀ 東壁土層断面中においても確認済み

注釈:周辺の既往調査において下層にも遺構が存在する可能性有り。

但し今回は安全性を考慮し、下層の調査を控える事とした。

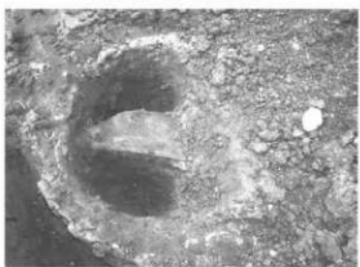
第48図 萩木遺跡(IK09-3) 第2造構面平面図、北壁・西壁土層断面図



調査地全景（南東より）



第1遺構面 検出状況（南より）



SP-01内、曲げ物蓋出土状況（南より、遠景）



SP-01内、曲げ物蓋出土状況（南より、近景）



調査区、北壁土層断面



調査区、西壁土層断面



発掘調査、作業風景（北東より）

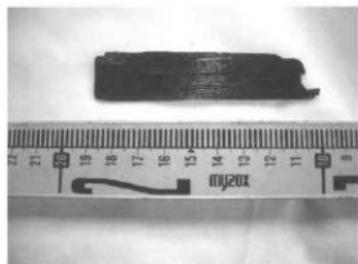
第49図 茨木遺跡(IK09-3) 遺構面検出状況



SP-01 内、出土曲げ物（蓋）



第1遺構面直上包含層内、出土木材 1



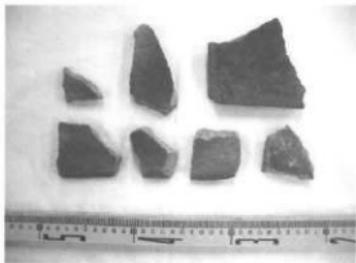
第1遺構面直上包含層内、出土木材 2



第1遺構面直上包含層内、出土平瓦 1



第1遺構面直上包含層内、出土平瓦 2



第1遺構面直上包含層内、出土土器

第50図 茨木遺跡(IK09-3) 出土遺物

太田遺跡 (OT09-2)

所在地 茨木市東太田一丁目 437-36

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 11 月 18 日

調査面積 約 5 m²

調査担当 中東正之

調査結果

経過 太田遺跡は、富田台地西崖下から安威川東岸にかけての緩い傾斜を有する沖積地にあたり、総持寺遺跡の北側の太田二丁目から東太田一丁目にかけて、南北に長く広がる弥生時代から中世の複合遺跡である。当地は、遺跡の南部、台地崖下の住宅地に位置する。周辺の既往の調査によ



第 51 図 調査位置図

ると、太田遺跡でも古い段階にあたる弥生時代後期の集落構造などが分布していることが確認されていたが、近年実施された発掘調査では、当地北側の東芝大阪工場跡敷地内で、弥生時代後期の集落跡をはじめ、古墳時代中期から後期の古墳群、奈良時代の建物跡、平安時代～中世の耕作関連遺構など、複合的な遺構面が検出されている。当地においては、住宅建設に伴い、各時代の遺構面の広がりの確認などを目的として、調査を実施した。

遺構と遺物 現地表面は、標高約 18.6m を測る。層序は、第 1 層 現代盛土、第 2 層 灰色砂質土(耕土)、第 3 層 灰黄褐色粘質土(床土)、第 4 層 濁黄色粘質土(整地土)、第 5 層 黑褐色粘

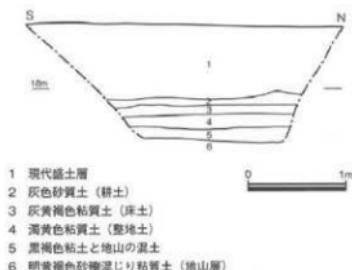
土と地山の混土(漸移層)、第 6 層 明黄褐色砂礫混じり粘質土(地山)となる。周辺の調査で普遍的な広がりが確認されている弥生時代後期の包含層は、整地によりほぼ削平されており、漸移層である第 5 層を残すのみである。第 6 層の地山層上面が、既往の調査における弥生時代後期の遺構検出面に該当するものである。第 6 層の標高は、約 17.5m を測る。遺構と遺物については、残念ながら検出できなかった。

小結 当地においては、弥生時代後期の遺構面である地山層を確認した。地山層は、安威川が供給した砂礫などの沖積層である。これまでの周辺における調査によれば、氾濫原からの距離などによって、その粒状性が異なる。細かく淘汰された硬質な土質の地山面が広がる場所は、密で安定し



第 52 図 調査区配置図

た遺構面の成立を見ることがある。また、段丘崖に近いと、堅固な砂礫からなる洪積層が優勢となり、遺構面の広がりが途絶えている。当地は、やや粗い砂礫の地山面を呈しており、もともと遺構の少ない状況であったとみられる。



第53図 西壁断面図



調査区掘削状況（南東から）



調査地全景（北から）



調査地より東芝跡地と紀伊陵を望む（南から）

第54図 発掘調査風景

牟礼遺跡 (MR09-1)

所在地 茨木市中津町 858-53

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 10 月 20 日

調査面積 約 23 m²

調査担当 中東正之

調査結果

経過 牟礼遺跡は、阪急茨木市駅の東側、安威川右岸の沖積地に立地する中津町と園田町を中心とした、東西約 600m、南北約 800m にわたって広がる遺跡である。昭和 60 年に中津町のジャスコ新茨木店の調査で発見され、縄文時代晩期の井堰を伴う自然流路と水田面が検出され注目された。

本調査地は、遺跡発見地点の 200m 程東に位置している。周辺の既往の調査では、弥生時代前期をはじめ古墳時代前期初頭および同後期の遺構、中・近世水田面などが検出されている。これらは比較的深い層位に存在するため、これまで個人住宅の試掘調査では確認が困難であった。今回、個人住宅建設に伴い、堆積層の確認を目的に調査を実施した。

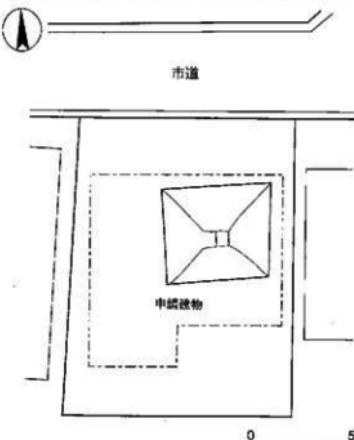
遺構と遺物 現地表面は標高約 7.9m を測る。バック・ホールによって標高 5.2m まで掘削したところ、第 1 層 現代盛土、第 2 層 暗青灰色シルト質土(耕土)、第 3 層 灰色粘質土(床土)、第 4 層 暗褐色粘質土、第 5 層 黄灰色砂質土層、第 6 層 灰色粘土層、第 7 層 灰色砂質土、第 8 層 褐灰色砂質土、第 9 層 青灰色粘性シルト、第 10 層 褐灰色粘質土(遺物・小礫含む)、第 11 層

暗灰色粘質土(小礫含む)、第 12 層 灰色砂質土層、第 13 層 灰色粘質土、第 14 層 灰色シルトの堆積が認められた。このうち標高 6.3m 付近の第 10 層が明確な遺物包含層である。その内容は、摩耗した土器細片ながら、黒色土器 B 類や「ての字状」縁の土師皿などを含むことから、平安時代中期頃に属すると考えられる。しかし、包含層に対応する遺構面は確認できなかった。堆積層の一部は、耕作凹連土や洪水覆土であったと考えられるが、明確に水田層と捉えられる上層は確認できなかった。

小結 当地においては、平安時代中期頃の遺物包含層が分布していることを確認したが、遺構面は検出できなかった。また、付近一帯は昔から連続と稻作が行われていたと考えられるが、古い時期の水田



第 55 図 調査位置図



第 56 図 調査位置図

層は、その層相のみでは的確に判断できないため、該当する層位に対して花粉分析やプラント・オバール分析で補うことが必要であろう。



第57図 南壁断面柱状図



調査区掘削状況（北から）



調査風景（北東から）



調査地全景（北から）

第58図 発掘調査風景

東奈良遺跡 (HN09-1)

所在地 茨木市奈良町 508-1・508-5

開発事業 個人住宅新築工事

調査期間 平成 21 年 11 月 18 日

調査面積 約 14 m²

調査担当 関 桦

調査結果

位置と環境

東奈良遺跡は、茨木市の南西部に位置し、西方の千里丘陵と東方の茨木川にはさまれた沖積平野上に位置する弥生時代から中世にかけての大規模な複合遺跡である。今回の調査地は、東奈良遺跡の北東部に位置し、中条小学校遺跡と東奈良遺跡の境界線近くにある。

東奈良遺跡は開発に際し多くの調査が行われている。既往の調査では土器や銅鐸の鋳型など弥生時代の遺物が多く出土しており、同時代を代表する府下屈指の著名な遺跡として知られている。

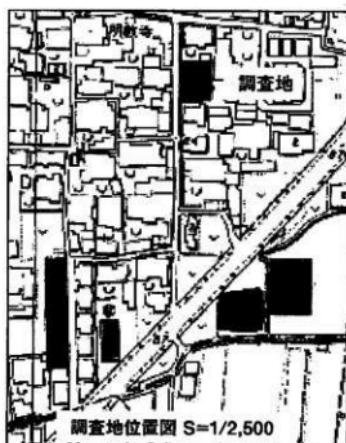
今回の調査地は、奈良町の旧集落内に位置しており近接地での発掘調査例は少ない。

周辺地域の調査では、当調査地の東側、秀和レジデンス南茨木建設に伴う調査において弥生時代の方形周溝墓が 5 基検出され、多くの供獻土器も出土している。また、当調査地の南側では共同住宅の建設に伴う調査により、土器と共に方形周溝墓や井戸、土坑といった弥生時代の遺構が多く検出されている。

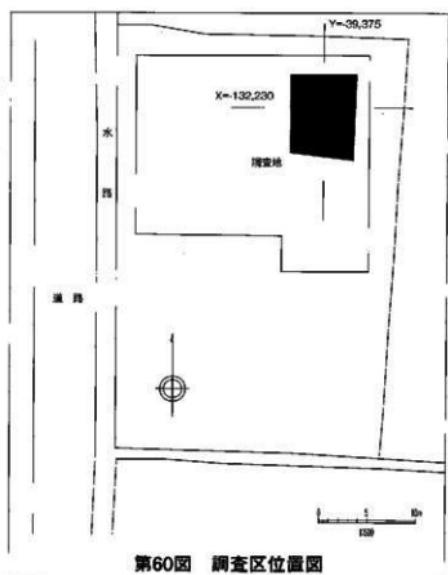
基本層序

当調査地においては、事前に試掘（立会）調査を行ったところ、建築予定地の北東部のトレンチにおいて、現地表面（GL）- 0.85m で地山層とその上面で溝状構造を検出したため、発掘調査を実施するに至った。

調査地の現地表面は標高（T.P）8.4m をはかり、層序は 3 層確認される。上



第59図 調査位置図



第60図 調査区位置図

層より現代盛土層（60cm）、旧耕作土（20cm）、2.5Y6/8 明黄褐色粘性砂質土層（地山層）で、地表面で遺構を確認した。

検出遺構

今回の調査において検出された遺構は、中世のものと考えられる東西方向の溝1条、柱穴1基、落ち込みを検出した。

出土遺物

試掘調査では、遺構面と想定される地山層の直上から陶器片が1点、土師器片4点が出土し、検出した溝状遺構の埋土からは須恵器の杯蓋片が出土している。

本調査における出土遺物は、先述した溝状遺構の埋土より、弥生土器2点、須恵器4点、土師器片6点、瓦器碗片1点、羽釜2点、擂鉢1点、丸瓦4点が出土している。

弥生土器は、壺もしくは壺の底部である。内面はナデ調整が施され、外面は磨耗していく調整は確認できなかった。須恵器は、内外面ともにナデ調整の破片が1点、内面に同心円タタキ、外面に格子目タタキを施した壺の破片が3点。内面ナデ調整、外面に並行タタキを施した中世須恵器の壺の破片が1点である。土師器はいずれも土師皿の破片であり、口縁部片が1点ある。瓦器碗は口縁部片である、口縁の形状から和泉型で時期は、13世紀後半から14世紀初頭と想定する。羽釜は、1点が口縁部の小片であり、時期は14世紀後半であろうか。擂鉢は備前焼の擂鉢の口縁部片で、形状から14世紀代のものと考える。丸瓦は、いずれも凹面には目の細かい布目が残る。うち1点は、凹面に吊り紐痕が残り、凸面には縄叩き痕が残る、他にも1点凸面に縄叩き痕が残るものがある。瓦の時期は、特定できる要素は少ないが、他の遺物の様相から14世紀頃の所産ではないかと考える。

上記以外に、落ち込みの埋土内から須恵器片が1点と、地山層直上から瓦器碗片が1点出土しているがいずれも小片である。

まとめ

今回の調査では東西に走る溝状遺構と弥生から中世に属する遺物を検出した。調査区が狭いため、溝状遺構の全体の規模は不明であるが、出土した遺物などから時期は13世紀後半から14世紀後半と考えられる。

また、今回の調査では弥生時代の遺構は検出されなかったが、遺構埋土から須恵器片や弥生土器の破片が一定量出土していることから、当該期の遺構がかつては存在し、後世の開発にともない削平により、遺構が失われたものと考えられる。今回の調査により、その開発の時期が14世紀ごろと想定することも可能ではないだろうか。

参考文献

茨木市教育委員会 1979年『東奈良遺跡発掘調査概報』

- 1 正耕作土10YR4/2灰黃褐色粘性砂質土
 2 2.5YR5/2暗灰黃色砂
 3 7.5YR5/1褐色砂質土
 4 5Y4/1灰色砂質土に5Y6/1灰色粘質土ブロック状に含む
 5 2.5Y6/3明黃褐色粘性砂質土(地山層)



第61図 調査地平面・断面図



調査地全景



遺構完掘状況



西壁土層断面（北半部）



北壁土層断面



出土遺物（瓦）



出土遺物（陶器等）



出土遺物（須恵器）



出土遺物（弥生土器）

第 62 図 東奈良遺跡 (HN09-1) 土層断面・出土遺物

中条小学校遺跡 (CJ09-6・7)

所在地 炭木市西中条町 137-10・137-11

開発事業 個人住宅新築工事 (2軒)

調査期間 平成 21 年 12 月 9 日～10 日

調査面積 約 43 m²

調査担当 中東正之

調査結果

経過 中条小学校遺跡は、千里丘陵からのびる低位段丘と炭木川が形成した沖積面に立地する、弥生時代中期から中世に至る複合遺跡である。規模は東西約 0.4km、南北約 1km を測る。当地は遺跡範囲の中央部西端に位置する。早くから市街化したために住居の建替えなど小規模な調査が多

かったが、周辺の既往の調査によれば、弥生時代後期から古墳時代の集落跡や、中世遺構などが検出されている。今回、隣接する 2 軒で同時に住宅建設がなされるのに伴い、遺構面の広がりやその複合度の確認を目的として、2 軒を縦断するかたちでトレンチを設定し、調査を実施した。

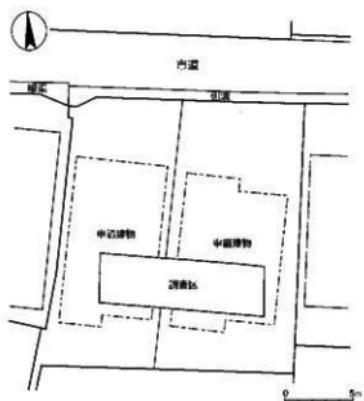
遺構と遺物 現地表面は、標高約 11.8m を測る。層序は、上層より第 1 層 現代盛土層、第 2 層 暗青灰色シルト質土 (耕土)、第 3 層 灰色土層、第 4 層 黄灰色土層、第 5 層 灰黄色粘質土、第 6 層 明黄褐色粘土 (地山) となる。第 3・4 層は耕作関連土とみられる。当地周辺で普遍的な分布が確認されている弥生時代後期から古墳時代の包含層は、削平されているためか存在しなかった。第 5 層はその層相から、周辺で分布が確認されている中世包含層に相当する堆積層では

ないかと考えられるが、層中から遺物が出土しなかったため判断はできなかった。遺構検出は、標高約 10.9m を測る地山層である第 6 層上面で実施したが、明確な遺構は検出されなかった。しかし、断面で観察される第 5 層と第 6 層の層界は、低湿地などでみられるような状況を示しており、検出面においては、削平された遺構の痕跡や足跡群のような浸食部分がみられた。

小結 当地においては、周辺の既往の調査で遺構面として確認されている地山層を検出したが、明確な包含層や遺構を検出することはできなかった。既往の調査では、中世期の土地改変や集落成立を示す検出状況が報告されており、当地も同時期に削平

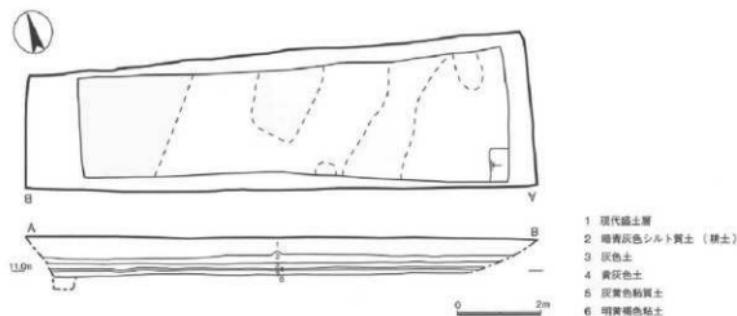


第 63 図 調査位置図



第 64 図 調査位置図

を受けたと考えられる。しかし、その後の湿润さを示す検出状況から、成立した中世集落の中心からは外れる地区であったと考えられるが、狭小な調査区では判断できないため、更なる調査例の増加を待って検討したい。



第65図 遺構平面図・南壁断面図



第66図 発掘調査風景

茨木遺跡 (IK09-4)

所在地 茨木市本町 1031-1

開発事業 開発事業 個人住宅建設事業

調査期間 平成 21 年 12 月 21 日～22 日

調査面積 12 m²

調査担当 宮本 賢治

調査結果

茨木遺跡は、上泉町・元町・本町・片桐町・宮元町・大手町にかけて広がる、弥生時代から中・近世にかけて営まれた集落跡である。遺跡の範囲は、東西約 300m × 南北約 700m の南北に長く広がっている。その中でも、片桐町・本町・元町を中心広がる茨木城跡が存在しており平成



第 67 図 調査位置図

度の調査において城の濠と考えられる大溝より柵間や建具などが保存の良い状態で出土している。また、南方には平成 4 年度から同 7 年度まで大阪府立茨木高等学校の建て替えに伴う試掘調査が大阪府教育委員会によって行われ、この時の調査によって新庄遺跡の存在が知られるようになった。この調査により、弥生時代前期から古墳、平安、中世、そして近世までの複合遺跡の様相が新たに判明している。特に弥生時代後期の竪穴式建物跡からは、北東辺に出入口を持ち、南東辺にベッド状施設を有する遺構が検出されている。なお、遺跡の包囲面積は、約 33 万 6 百 m² を占める。

当調査地は、戦国大名である中川瀬兵衛清秀(1541～1583)の菩提寺である梅林寺のすぐ東隣りに位置する場所である。今回の個人住宅建設事業に伴い、事前に施工サイドと協議を経て、今回の本発掘調査を実施するに至った。

今回の調査では近世頃の生活面を中心とした面を第 1 遺構面、中世の終わり頃の生活面を中心とした第 2 遺構面、中世頃の生活面を中心とした面を第 3 遺構面とした。

基本層序

基本層序については、第 1 層～第 6 層に大別する事ができる。上層より順に、第 1 層は現代の盛土層である。層厚、概ね 0.85m を測る。第 2 層は、第 1 遺構面直上包含層である。近世頃の遺物を含む。土性は暗緑灰色砂質土 LS7.5GY4/1 を主体として、明オリーブ灰色微砂 S2.5GY7/6 が混じる。層厚は、概ね 0.1～0.2m を測る。第 3 層は、近世頃の生活面(第 1 遺構面)である。土性は灰色砂質土 LS10Y5/1 を主体とし、灰白色微砂 S10Y8/2 が混じる。層厚は、東壁土層断面中においては北側は概ね 0.2m を測り、南側に向かって層の残存状況が良好となり層厚は概ね 0.3m を測る。南壁調査区土層断面中においては、層の堆積状況は比較的安定しており、概ね層厚 0.3m を保つ。この生活面において、ピット状遺構 1 基、土壙状遺構 1 基を検出し、また西壁調査区土層断面中におけるこの生活面において、摩滅した土師皿の破片を含む

ピット状遺構 1 基を検出している。第 4 層は、自然堆積層である。上性はオリーブ黒色粘土 HC7.5Y3/2 を主体とし、オリーブ灰色粗砂粒 S10Y6/2 が混じる。層厚は、概ね 0.1m を測るが南壁土層断面中においては、この層は全く検出されず削平されたものと思われる。第 5 層は、自然堆積層である。上性は灰色粘土 HC7.5Y4/1 を主体とし、灰オリーブ色微砂 S10Y6/2 が混じる。層厚は、概ね 0.1m を測る。第 6 層は、第 2 遺構面直上包含層である。土性は灰色粘土 HC10Y4/1 を主体とし、浅黄色微砂 S7.5Y7/3 が混じる。層厚は概ね 0.15m を測るが、南壁土層断面中においては層の堆積状態は安定しており、層厚は概ね 0.3m を保つ。

検出遺構

第 1 遺構面では、近世を中心とした生活面を検出している。検出された遺構としては、ピット状遺構 8 基、溝条遺構 1 条、土壌状遺構 4 基である。

第 2 遺構面では、主に中世終わり頃の遺構を検出している。検出された遺構としては、ピット状遺構 6 基、溝条遺構 1 条、土壌遺構 1 基、不整形状遺構 1 基である。

第 3 遺構面では、主に中世頃の遺構を検出している。検出された遺構としては、ピット状遺構 3 基、溝状遺構 1 条、土壌状遺構 1 基である。その内、溝状遺構である SD-301 からは、中世頃の瓦が出土している。この溝状遺構は調査区の北側で検出されており、東西方向に走るものである。なお、検出されたレベルから西から東方向に向かって走る溝である事が分かる。

出土遺物

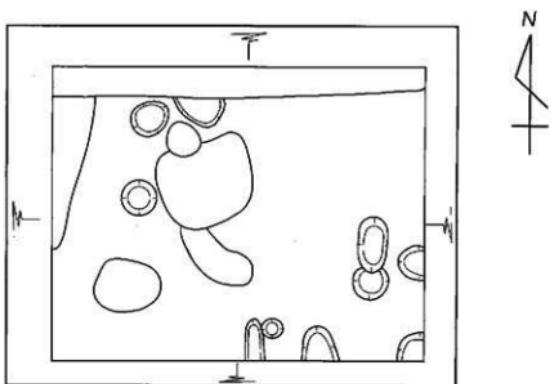
今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナパッド(縦 14 × 横 36 × 奥行き 56cm)に換算して 1 箱分である。その種類と内訳は、瓦や陶磁器、建築部材と考えられる加工痕のある木材が出土している。

まとめ

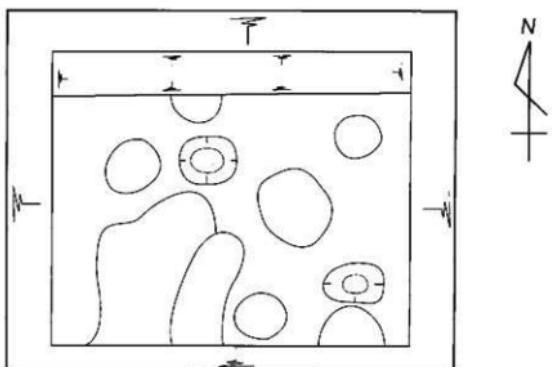
今回の調査から、今後の周辺での調査および成果に期待するものである。

参考文献

茨木市教育委員会『平成 18 年度発掘調査概報』平成 18 年 3 月



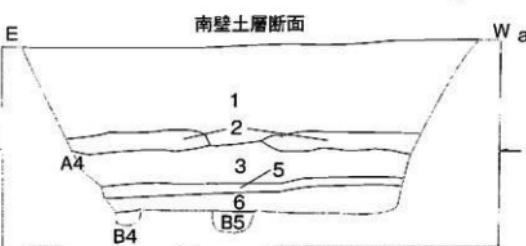
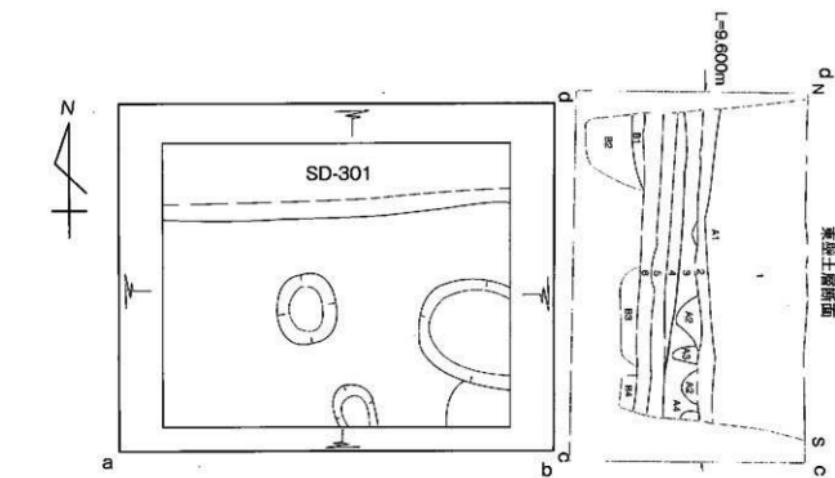
茨木遺跡 (IK09-4) 第1遺構面平面図



茨木遺跡 (IK09-4) 第2遺構面平面図

0 1:20 2m

第 68 図 茨木遺跡 (IK09-4) 第 1・2 遺構平面図



基本層序

1. 盛土
2. 緑灰色砂質土LS7.5GY4/1に明オリーブ灰色微砂S2.5GY7/1混じる。
3. 灰色砂質土LS10Y5/1に灰白色微砂S10Y8/2混じる。
4. オリーブ黒色粘土HC7.5Y3/2にオリーブ灰色粗砂粒S10Y6/2混じる。
5. 灰色粘土HC7.5Y4/1にオリーブ色微砂S7.5Y5/2混じる。
6. 灰色粘土HC10Y4/1に淡黄色微砂S7.5Y7/3混じる。
- A1. 暗オリーブ灰色砂質土LS2.5GY3/1に灰白色粗砂S2.5GY8/1混じる。
- A2. 黄灰色粘性砂質土SCL2.5Y4/1に明緑灰色粗砂粒S10GY7/1混じる。
- A3. 黄灰色砂質土SCL2.5Y5/1に黄褐色粗砂S2.5Y5/6混じる。
- A4. 暗オリーブ色砂質土SCL10Y5/1にオリーブ褐色粗砂S2.5Y4/4混じる。
- B1. 暗オリーブ灰色粘性砂質土SCL5GY3/1に明緑灰色粗砂粒S10GY7/1混じる。
- B2. 暗緑灰色粘質土SC7.5GY3/1に緑灰色粗砂粒S10GY6/1混じる。
- B3. 暗緑灰色粘性シルトSIC7.5GY4/1に浅黄色粗砂粒S5Y7/4混じる。
- B4. 暗緑灰色粘質土SCL7.5GY4/1に明オリーブ灰色微砂S2.5GY7/1混じる。
- B5. 暗オリーブ灰色砂質土SL5GY4/1に緑灰色微砂S7.5GY5/1混じる。

0 1:20 2m

第69図 茅木遺跡 (IK09-4) 第3造構面平面図、調査区東壁・南壁土層断面



調査地 全景 (北西より)



第1造構面、造構埋土検出状況 (西より)



第2造構面、検出状況 (西より)



第3造構面、検出状況 (西より)



調査区、東壁土層断面



調査区、北壁土層断面

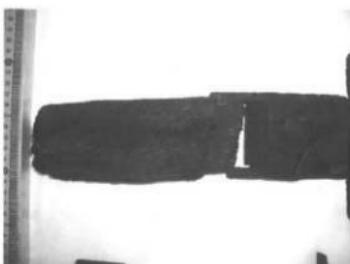


発掘調査、作業風景 (南西より)

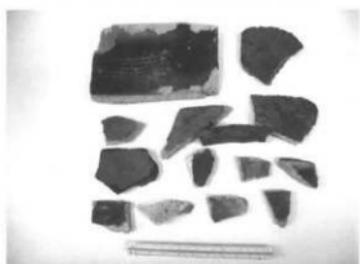
第70図 萩木遺跡 (IK09-4) 遺構検出状況



第1造構面直上に包含層内出土木製品①



第1造構面直上に包含層内出土木製品②



第1造構面直上に包含層内出土遺物



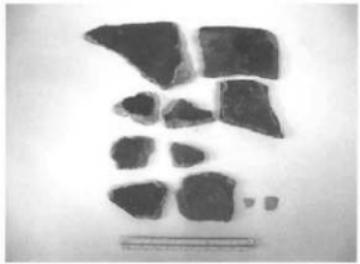
第2造構面直上に包含層内出土遺物①



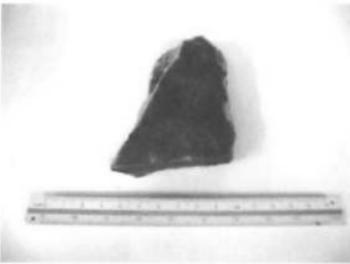
第2造構面直上に包含層内出土遺物②



第3造構面直上に包含層内出土遺物



第3造構面 SD-301 出土遺物



第3造構面 SK-301 出土遺物

第71図 落木遺跡(IK09-4) 出土遺物写真

報告書抄録

ふりがな 書名	おおさかみいはらさしへいせいにじゅうねんはとくつちょうあがひはう・こじんじゅうたくけんちくにともなうはとくつちょうあがひはう						
著者名 巻次	大滋川市平成21年度発掘調査概報・個人住宅建築に伴う発掘調査報告 平成21年度(2009年度)						
シリーズ名							
シリーズ番							
調査名	中条北二・宮本賢治・簡朴						
実施機関	滋賀県教育委員会						
所 在 地	567-8805 大阪府茨木市駅前三丁目8番1号						
発行年月日	西暦2010年3月31日						
所以遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	貯蔵面積
鶴林寺	上池横三丁目1004-1	43	27211	34°49'30"	135°33'24"	20090305~ 20090309	340 m ²
鶴川	鶴川二丁目84-9	95	27211	34°49'16"	135°35'33"	20090316	20 m ²
上中条	上中条二丁目50-6	56	27211	34°49'17"	135°34'4	20090413~ 20090415	430 m ²
太田	太田二丁目22-2	28	27211	34°50'31"	135°34'31"	20090525	120 m ²
郡	五日市鶴町25-2	35	27211	34°49'48"	135°33'45"	20090601~ 20090602	440 m ²
五日市	上野町88-8	79	27211	34°50'10"	135°33'39"	20090604	140 m ²
倍賀	春日四丁目508-4280-3	47	27211	34°49'26"	135°33'54"	20090625~ 20090626	490 m ²
中条小学校	下中条町51-651-7	52	27211	34°48'49"	135°33'57"	20090714~ 20090715	210 m ²
郡	上池横二丁目43-6	35	27211	34°49'33"	135°33'33"	20090715	36 m ²
中条小学校	下中条町126-4	52	27211	34°48'49"	135°33'57"	20090806~ 20090807	60 m ²
郡	上池横四丁目1052-3	35	27211	34°49'36"	135°33'29"	20090818	60 m ²
鶴川	鶴川二丁目74-18	95	27211	34°49'17"	135°35'35"	20090825	36 m ²
茨木	別院町1357-1	104	27211	34°49'7"	135°34'27"	20090925	145 m ²
太田	東太田一丁目437-36	28	27211	34°50'12"	135°34'38"	20091118	46 m ²
牛乳	中津町858-53	82	27211	34°48'58"	135°34'57"	20091020	225 m ²
東奈良	奈良町508-1508-5	55	27211	34°48'26"	135°33'59"	20091118	140 m ²
中条小学校	西中条町137-10	52	27211	34°48'43"	135°33'53"	20091209~ 20091210	160 m ²
中条小学校	西中条町137-11	52	27211	34°48'43"	135°33'53"	20091209~ 20091221	270 m ²
茨木	本町131-1	104	27211	34°49'8"	135°34'20"	20091222	120 m ²
所取遺跡名	種別	生時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
穂積庵寺	寺院跡	奈良朝		土器			
鶴川	集落跡			土器		遺構及び遺物は、確認されず。	
上中条	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	溝	土器・須恵器			
太田	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	溝	古代住居瓦片・中空軽瓦瓦片・阿美板瓦片・土器・須恵器・陶器			
郡	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	柱穴	土器・須恵器			
五日市	集落跡	曇泥流路		瓦質土器・土器			
倍賀	集落跡	古墳時代	ピット				
中条小学校	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	溝	弥生土器・土器			
郡	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	柱穴	土器			
中条小学校	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	柱穴・土器・溝	弥生土器・土器・須恵器			
郡	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	ピット				
鶴川	集落跡	溝		瓦質土器・瓦片・弥生土器・土器・須恵器			
茨木	集落跡	古墳時代	土壤・溝	曲げ物器・瓦片・陶磁器			
太田	集落跡	弥生時代~ 古墳時代			遺構と見られる、遺物を複数		
牛乳	集落跡	縄文時代		土器	見られる遺物の痕跡と見られるもの		
東奈良	集落跡	弥生時代~ 古墳時代	柱穴・土器・溝	土器・須恵器			
中条小学校	集落跡	弥生時代~ 古墳時代					
中条小学校	集落跡	弥生時代~ 古墳時代					
茨木	集落跡	古墳時代	ピット・溝	陶磁器・瓦・建築部材			

平成 21 年度発掘調査概報
- 個人住宅建築に伴う発掘調査報告 -

発行日 平成 22 年 3 月 31 日
発 行 茨木市教育委員会
印刷所 株式会社 西川印刷所